

**地域活性化・環境教育プロジェクト  
アンケート調査 報告書**

2013年2月

NPO 法人 霧多布湿原ナショナルトラスト  
北海道教育大学釧路校・地域社会と環境研究室

## ■ 本調査の目的

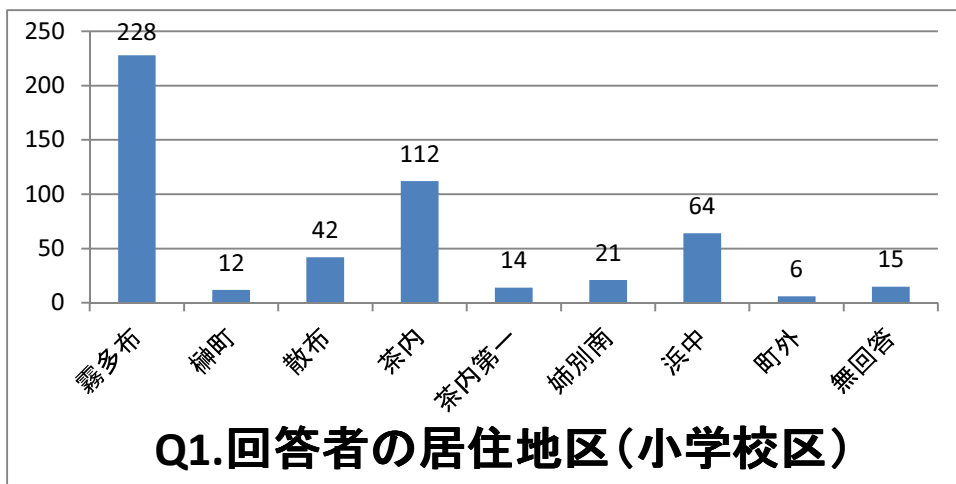
- ・ 第一に、浜中町の住民（特にお仕事をされている方）の環境保全、地域活性化・まちづくりに対する考え、取り組みの状況などについて把握することを目的にしている。
- ・ あわせて、本調査で明らかになった事項を、今後の浜中町における環境保全、地域活性化・まちづくりの取り組みの方向性、戦略について考える際の基礎データとして活用することを狙いとしている

## ■ 基本データ

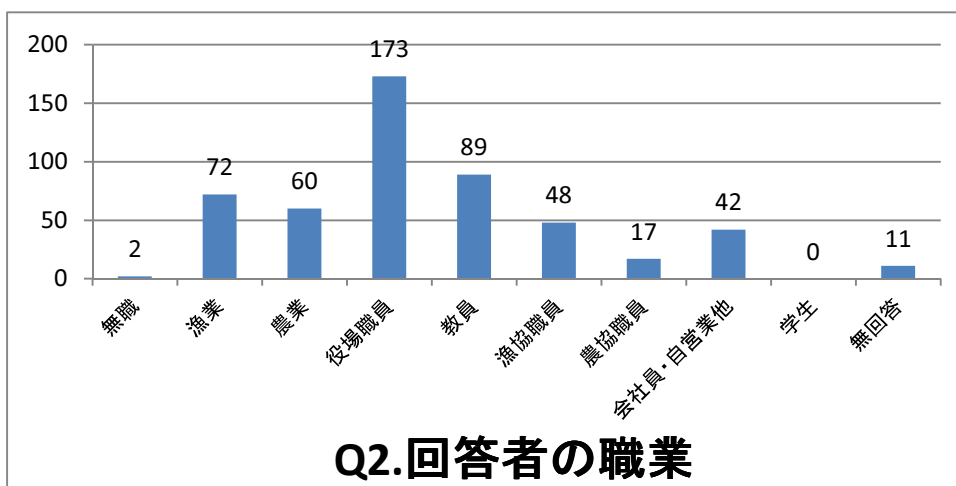
- ・ 実施期間：2012年9月～11月
- ・ 実施方法：町役場、JA浜中、漁協（浜中、散布）、商工会、教育委員会に対して、職員、組合員への調査票の配布を依頼、回収
- ・ 配布数：989
- ・ 回収数（率）：513（51.8%）

### Q1. 回答者の居住地区

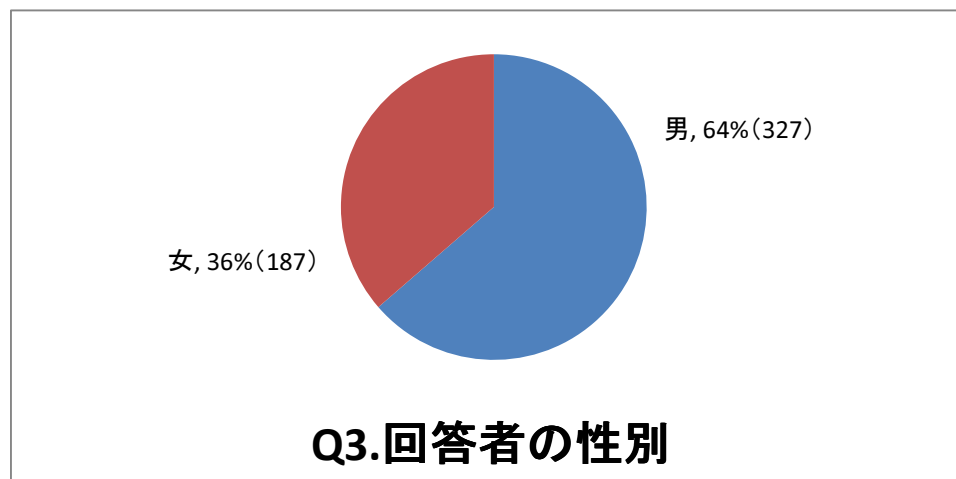
回答者の居住地区を小学校区（2012年4月時点）に分けた。



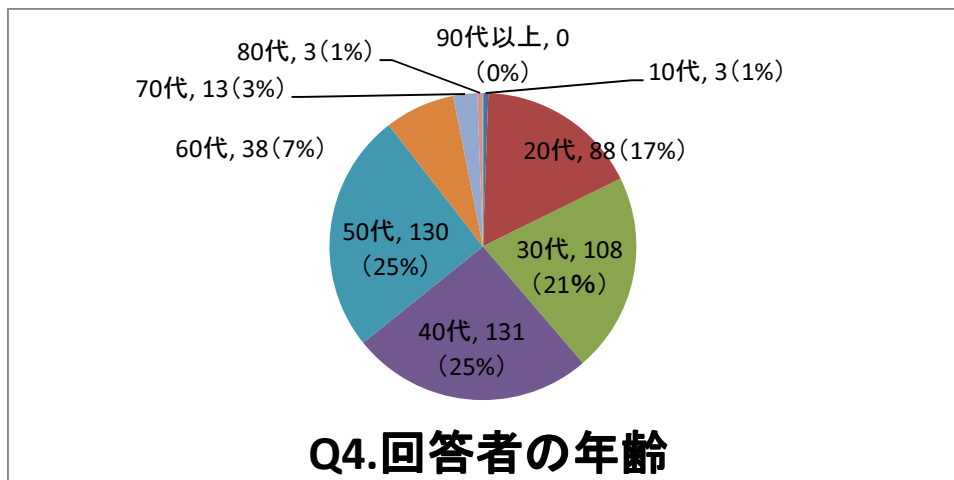
### Q2. 回答者の職業



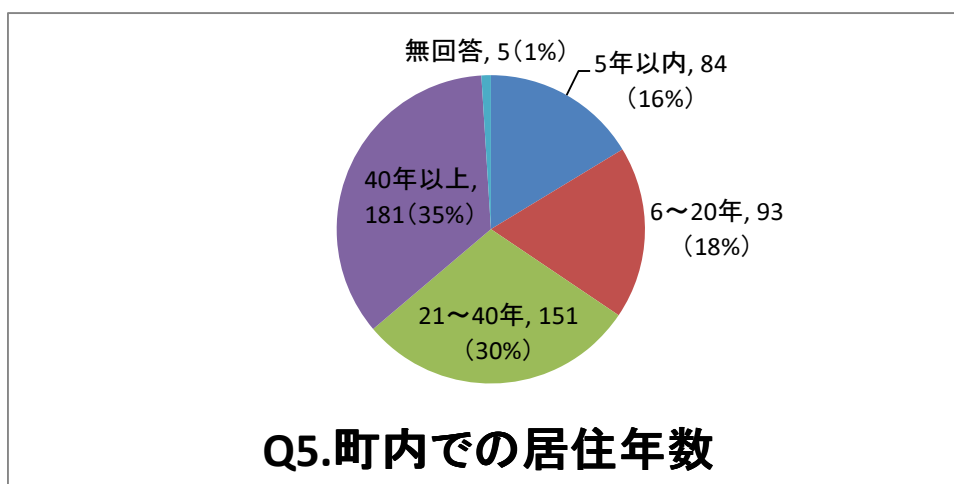
### Q3. 回答者の性別



Q4. 回答者の年齢



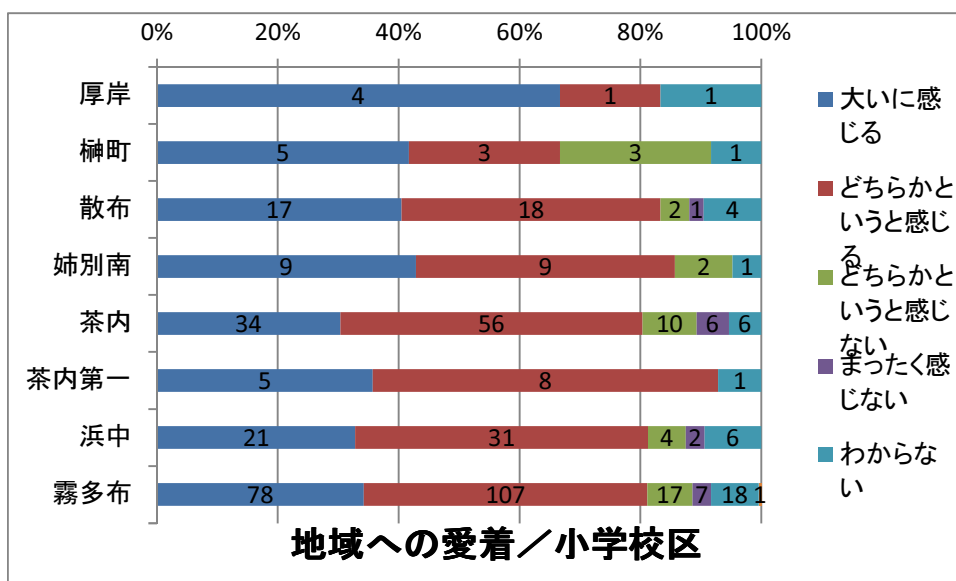
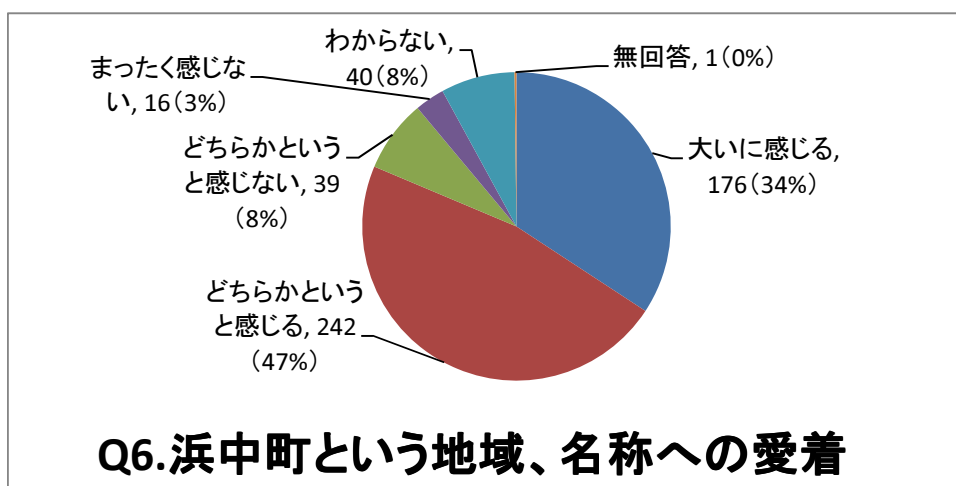
Q5. 浜中町での居住期間

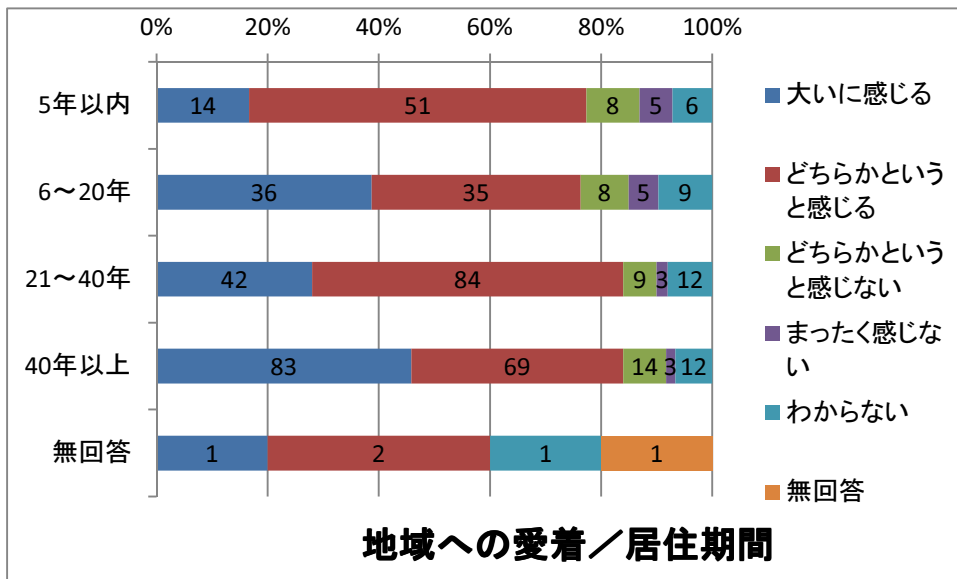
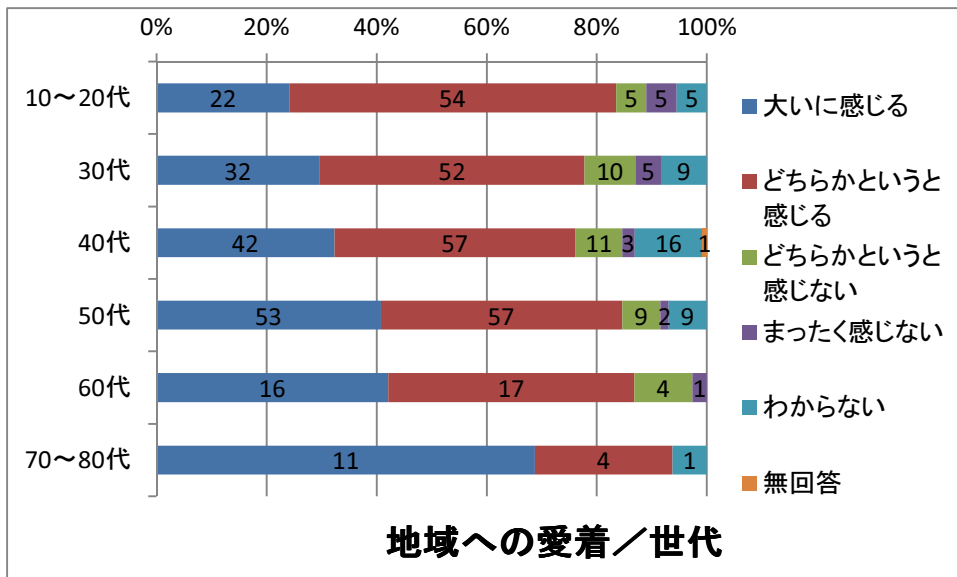
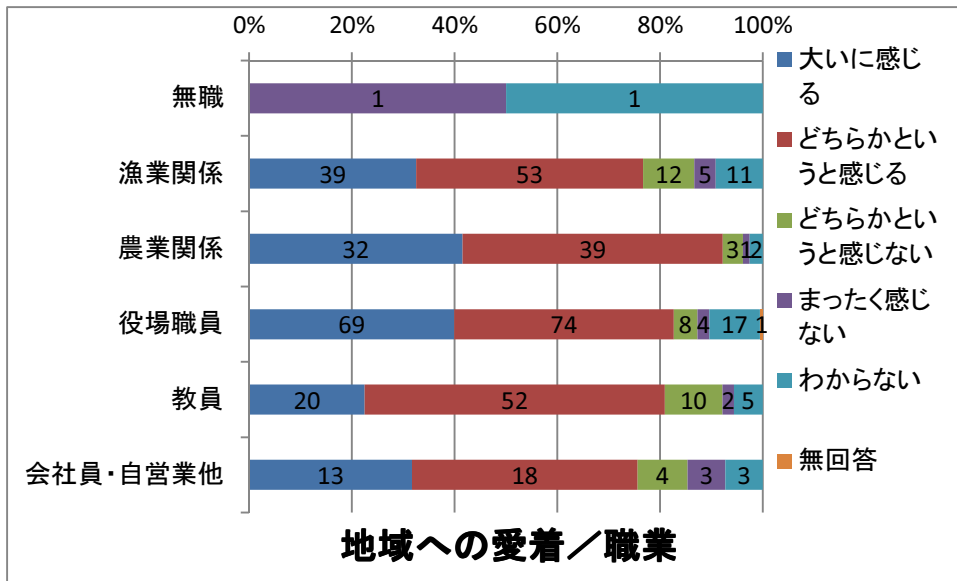


## Q6. 浜中町という地域、名称への愛着

浜中町という地域、名称に愛着を持っているかどうか質問した。その結果、「大いに感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせると 81%となり、多くの住民が程度に差はあるものの浜中町に何らかの愛着を有していることが分かった。

この結果について居住地区や職業などの属性別に分けて見ると、まず、居住地区別では、全般的に大きな差異はなく、いずれの地区も愛着を有する住民が多数を占めているが、その中で比較すると、茶内第一地区が多く、榊町地区が少なくなっている。職業別では、これも全般的に愛着を有する住民が多いが、その中で農業関係が比較的多くなっている。世代と居住期間別では、年齢層が高い、居住期間が長いほど愛着を有する住民が多いことが分かった。

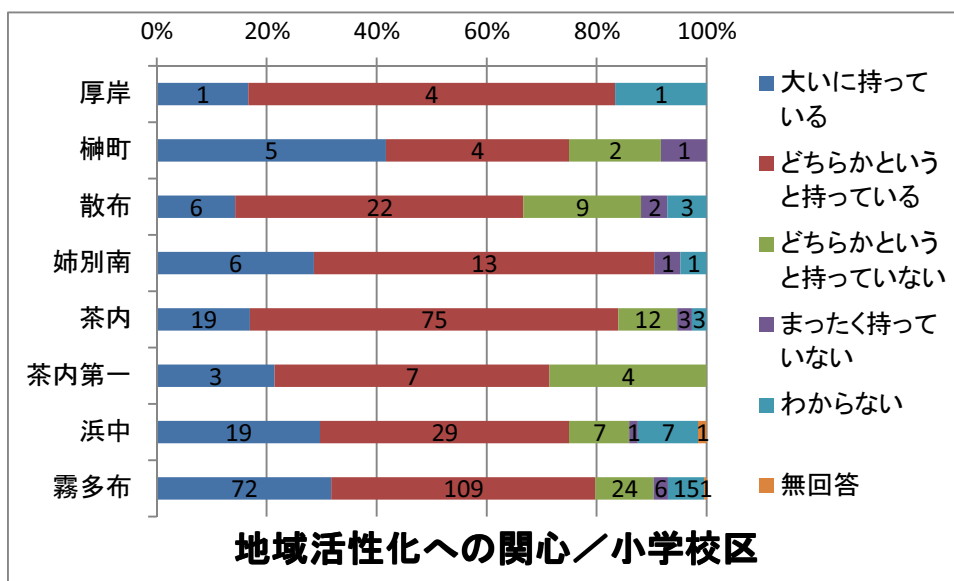
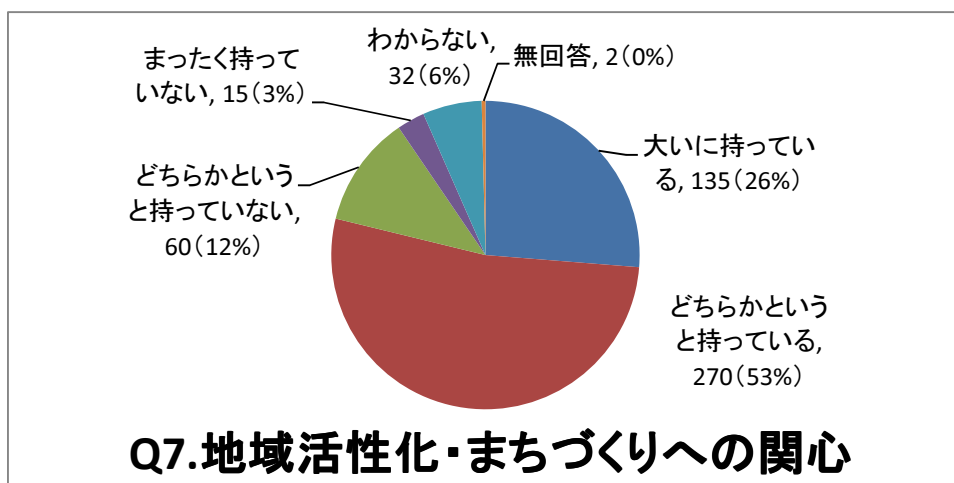


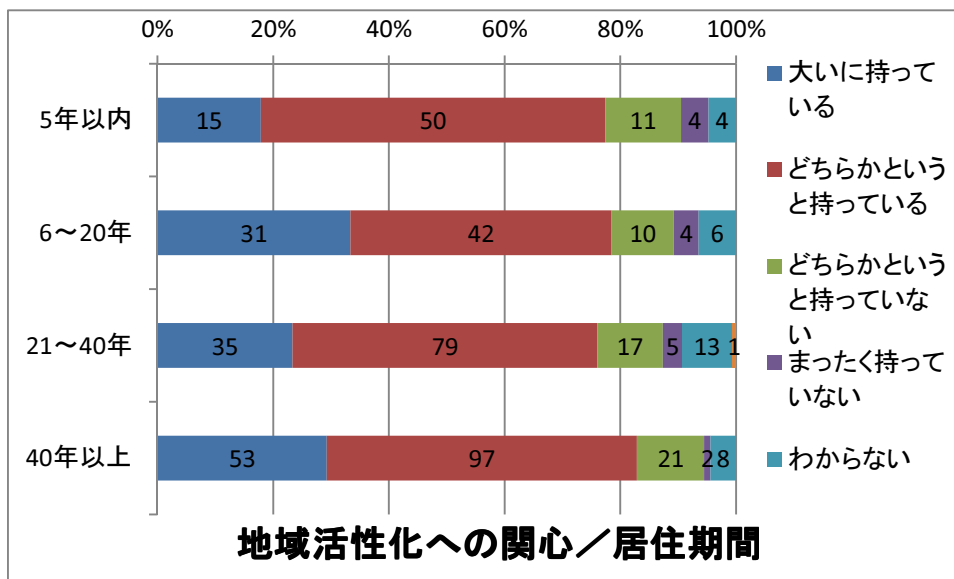
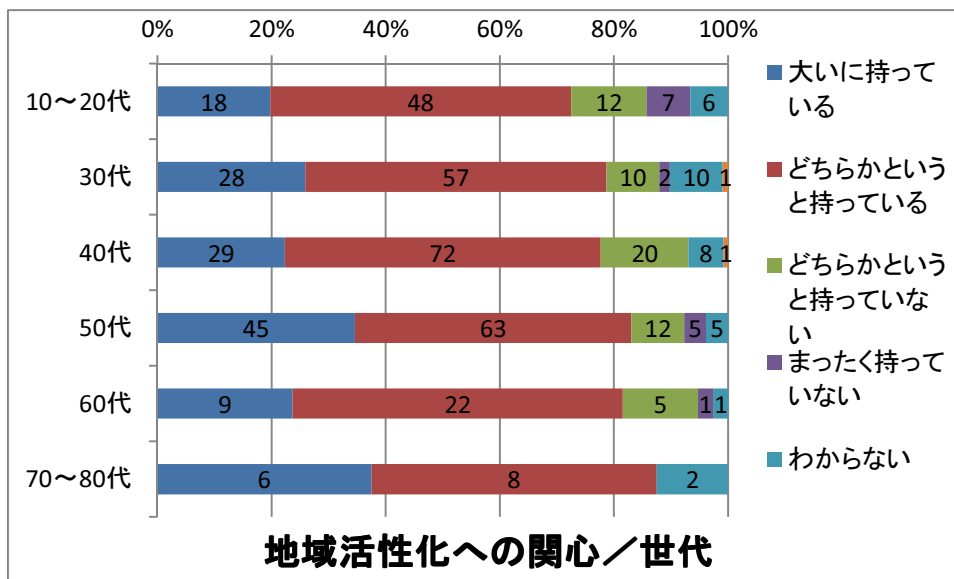
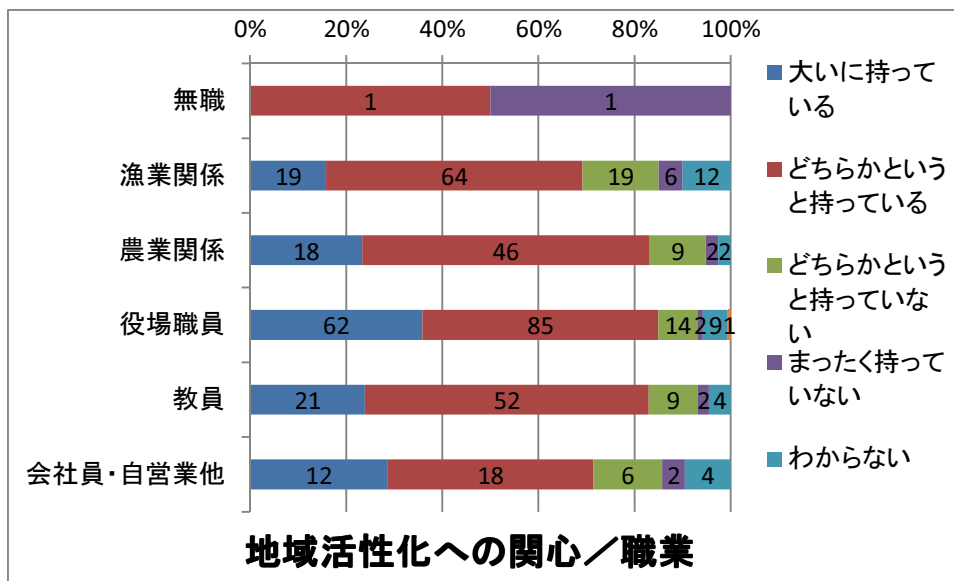


## Q7. 浜中町の地域活性化・まちづくりへの関心

浜中町の地域活性化・まちづくりへの関心について聞いた。その結果、「大いに持っている」が26%、「どちらかというを持っている」が53%となり、両者を合わせると8割近くの住民が地域活性化・まちづくりに対して何らかの関心を有することが分かった。

この結果を属性別に見ると、小学校区別では、姉別南地区や茶内地区などが他地区と比べて関心を有する住民が多く、散布地区や茶内第一地区などが少なくなっている。職業別では役場職員、教員、農業関係で関心を有するという回答が比較的多かった。世代別では、若干だが、年齢層が高くなるほど関心を有する住民が多くなっており、居住期間別では明確な差異は見られなかった。



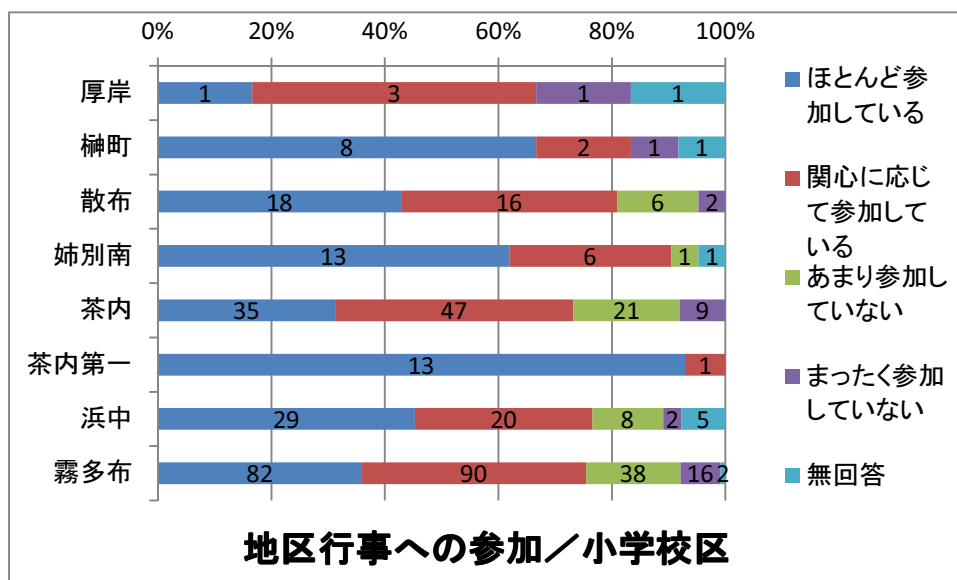
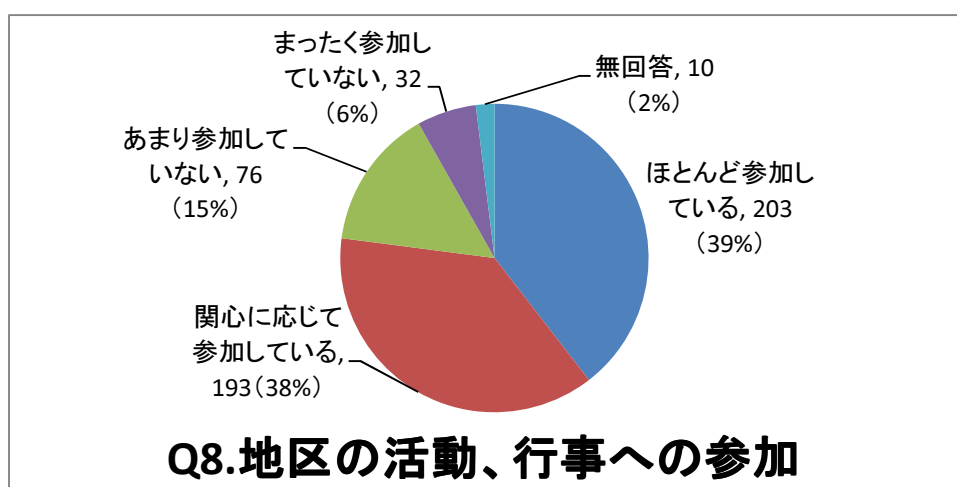




## Q8. 居住地区の諸活動・行事への参加状況

居住地区の祭り、学校行事、自治会行事などの諸活動・行事への参加状況について聞いた。その結果、「ほとんど参加している」が39%、「関心に応じて参加している」が38%となっており、程度に差はあるものの諸活動・行事に何らかの形で参加している住民が8割近くを占めていることが分かった。

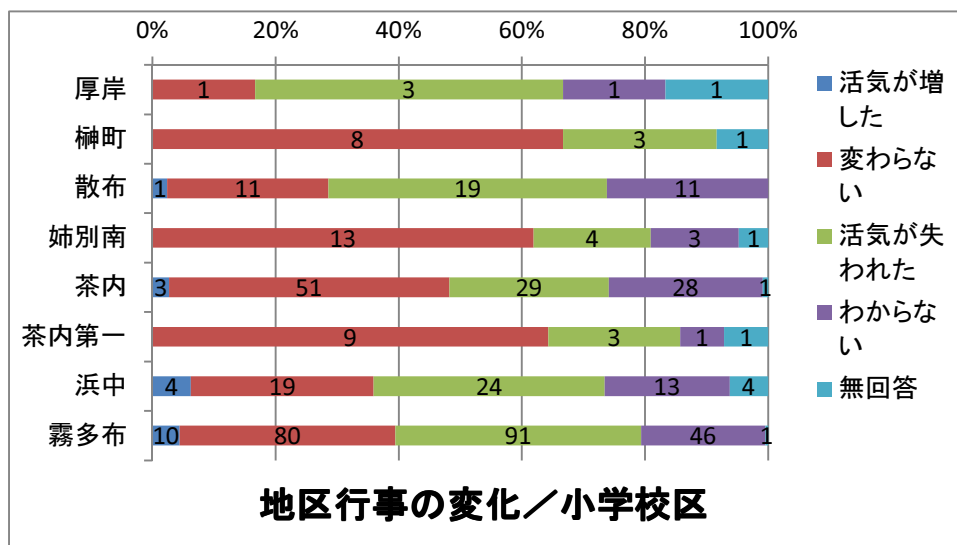
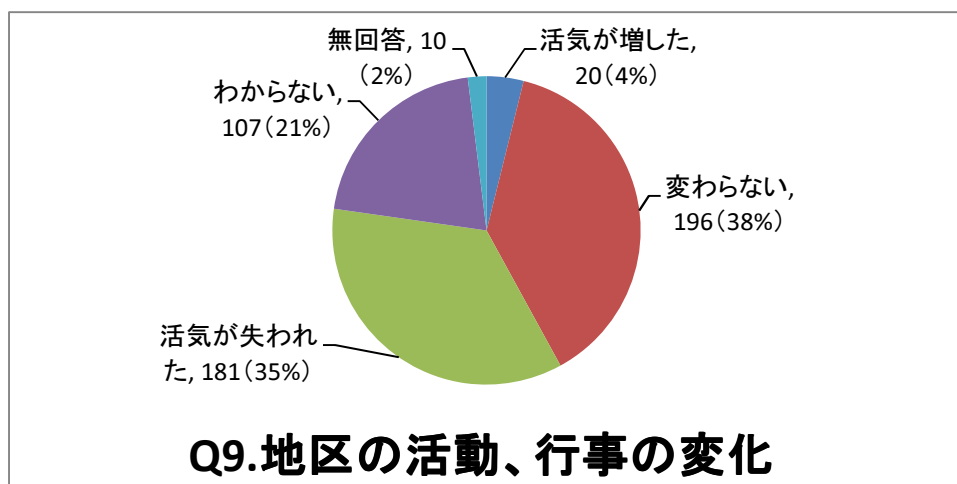
この結果を居住地区別で見ると、茶内第一地区では「ほとんど参加している」と回答した住民が9割を越えている。その他、榊町地区や姉別南地区もほとんど参加していると回答している住民が比較的多い。



### Q9. 居住地区の諸活動・行事の変化

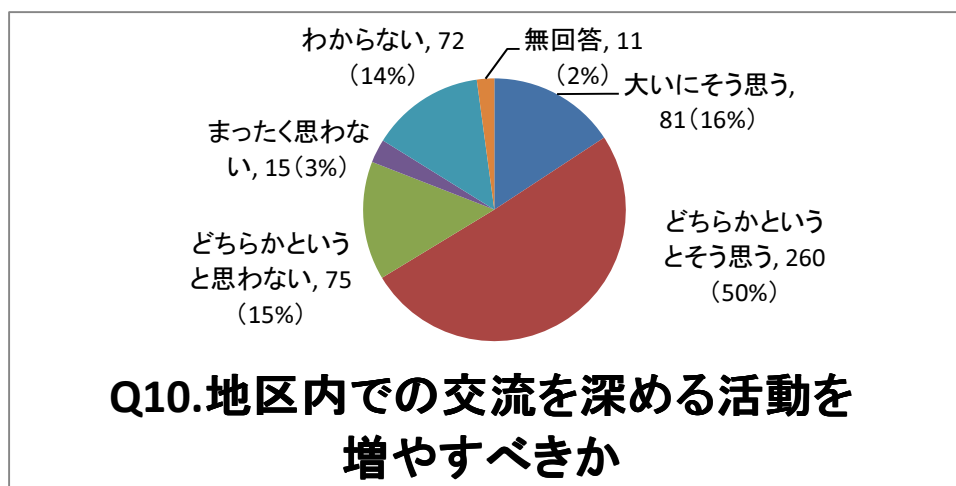
以前と比べて居住地区の諸活動・行事がどのように変化するか聞いた。最も多かったのは「変わらない」(38%)だったが、「活気が失われた」という回答も35%と多かった。一方で、「活気が増した」という回答は4%にとどまっている。全般的に、地域の諸活動・行事は変わらないか、活気が失われていると考える住民が多いことが分かる。

この結果を居住地区別で見ると、地区によってかなり明確な違いがあり、榊町地区、姉別南地区、茶内第一地区では「変わらない」と回答した住民が比較的多いのにに対して、散布地区、浜中地区、霧多布地区では「活気が失われた」と回答した住民が多くなっている。



#### Q10. 地区内での交流を深める活動を増やすことの必要性

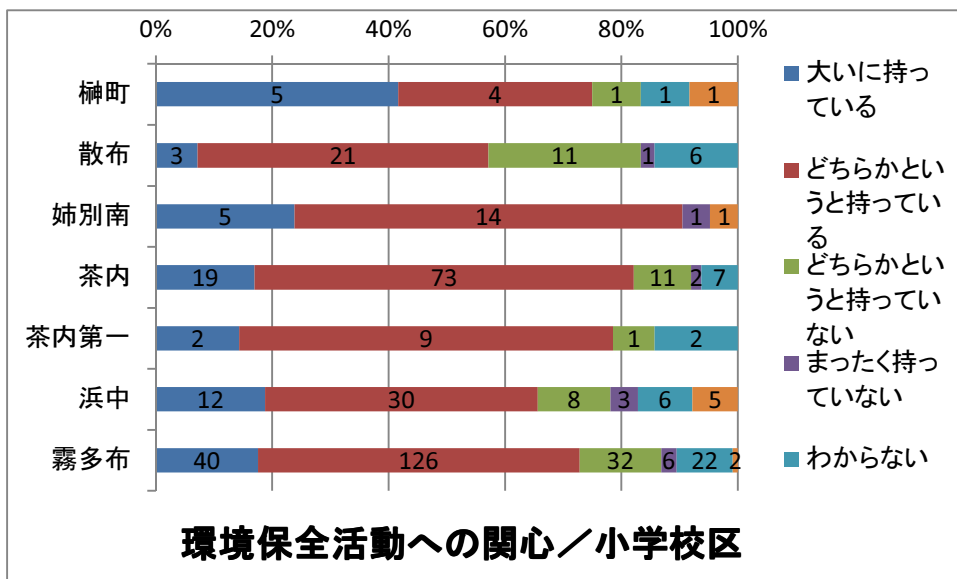
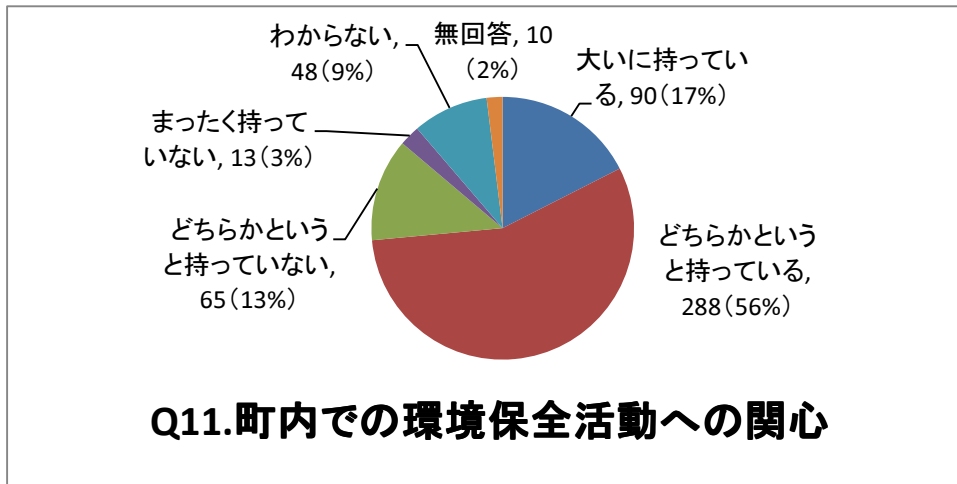
地区内での交流を深める活動を増やすべきかどうか聞いた。最も多かったのは「どちらかというと思う」(50%)だった。また、「大いに思う」が16%であり、両方を合わせると66%の住民が増やしたほうがいいと考える傾向にあることが分かった。一方で、「どちらかというと思わない」、「まったく思わない」と考えている住民も18%と少なくない。

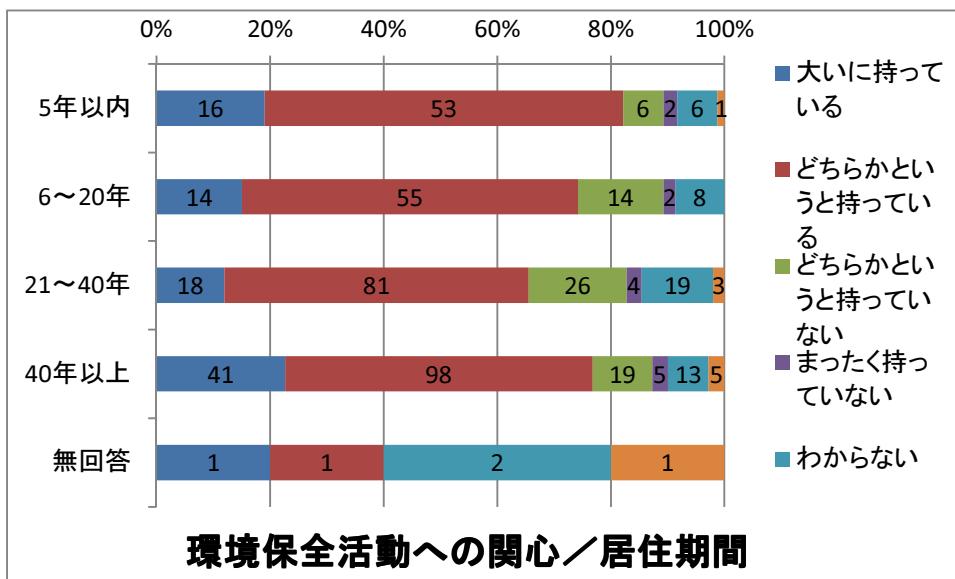
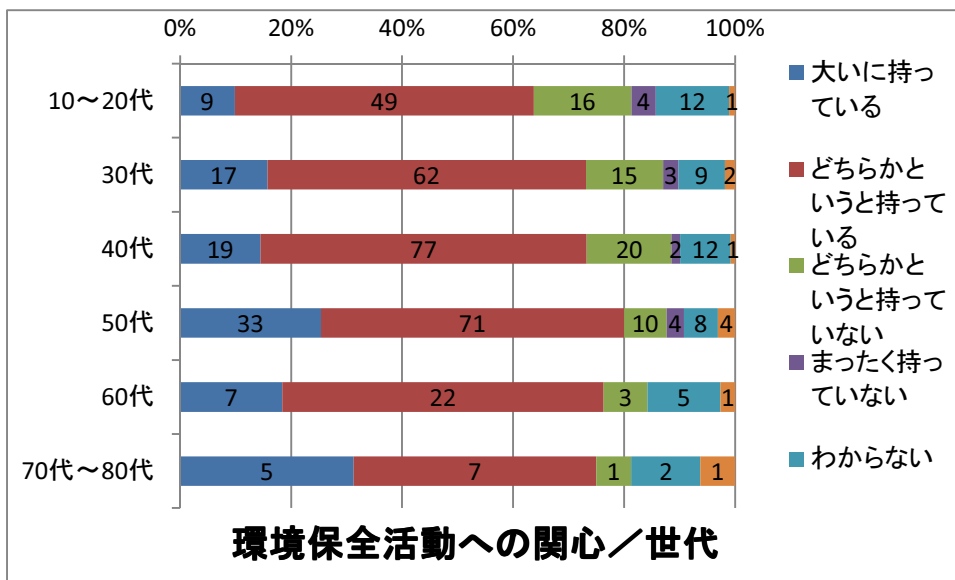
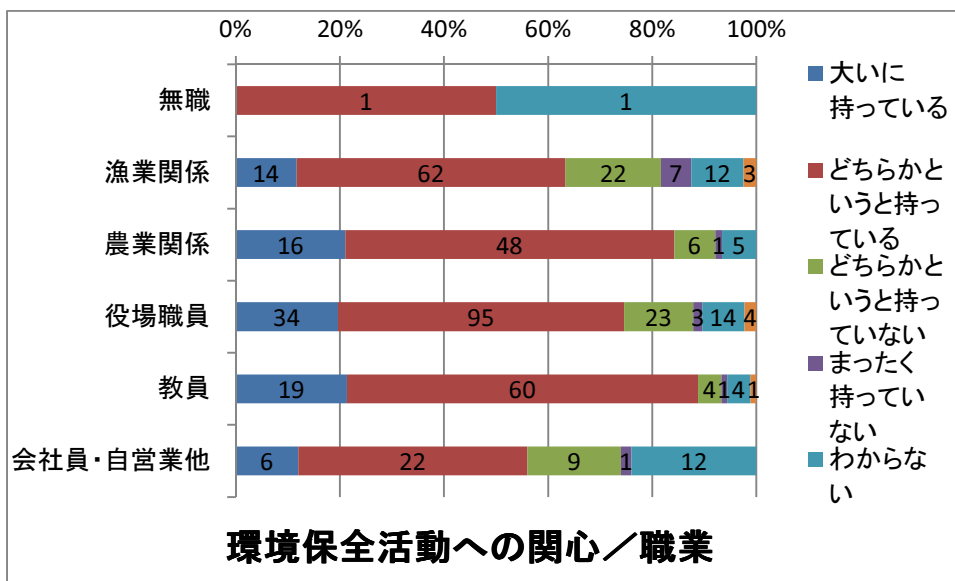


### Q11. 浜中町内での環境保全に対する関心

浜中町内での環境保全に関する取り組みについて関心を持っているかどうか聞いた。最も多かったのは「どちらかというを持っている」(56%)だった。「大いに持っている」(17%)、と合わせると 73%の住民が程度に差はあるものの環境保全について何らかの関心を有していることが分かった。

この結果を属性別に見ると、まず居住地区別では、全般的にいずれの地区も関心を有する住民は多いが、その中で比べると、特に姉別南地区、茶内地区、茶内第一地区などが多くなっており、散布地区が少なくなっている。職業別では、教員、農業関係が比較的多く、会社員・自営業他、漁業関係が少なくなっている。世代別では 10~20 代が若干少ないのを除くと大きな差異はないが、50 代が比較的関心を有する住民が多くなっている。居住期間別も大きな差異はないが、その中では 5 年以内が比較的多く、20~40 年が少なくなっている。

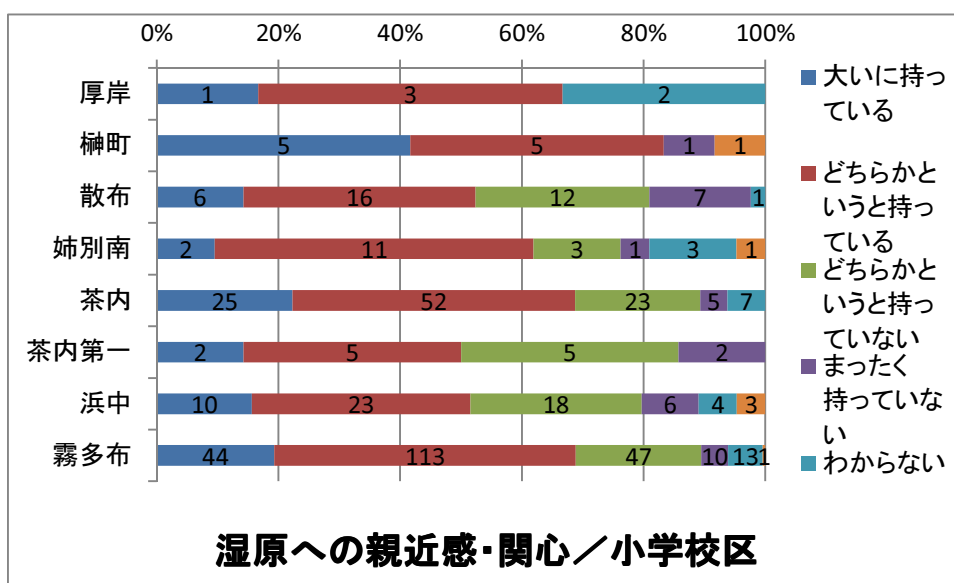
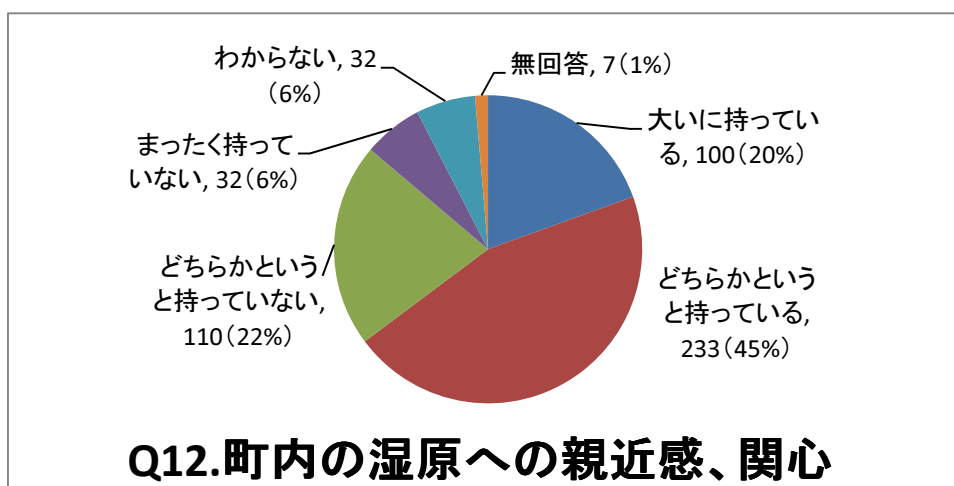


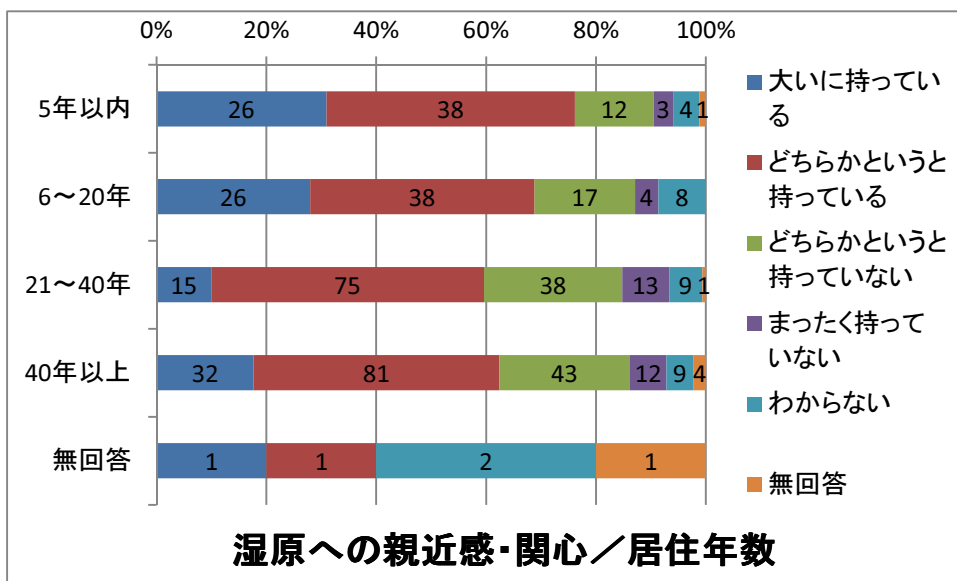
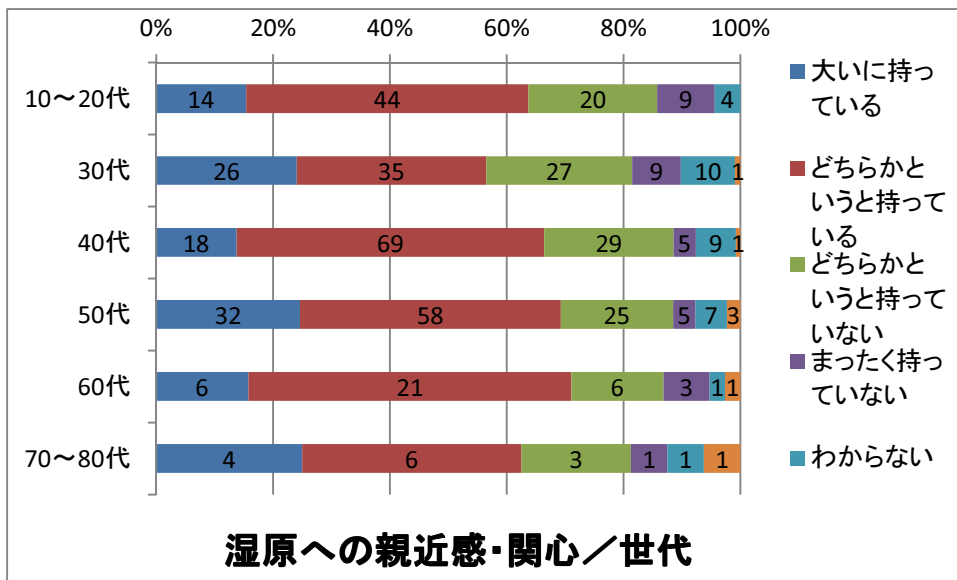
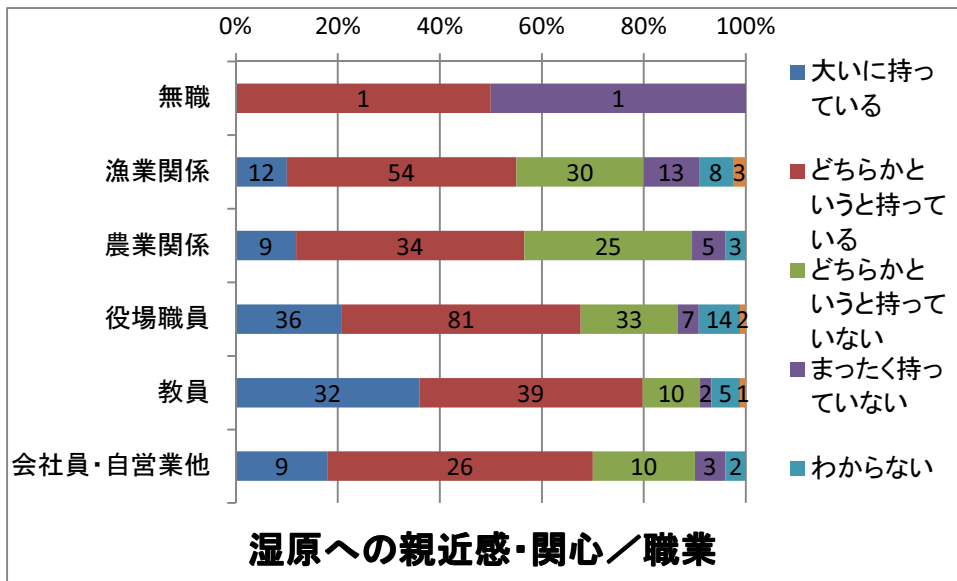


## Q12. 浜中町内の湿原への親近感、関心

浜中町内の湿原に親近感、関心を有しているか聞いた。その結果、最も多かったのは「どちらかというを持っている」(45%)だった。「大いに持っている」(20%)と合わせると65%の住民が、程度に差はあるものの湿原に対して親近感や関心を有していることが分かった。一方で、「どちらかというを持っていない」、「まったく持っていない」という住民も28%と少なくないことが分かった。

この結果を属性別に見ると、まず、居住地区別では特に榊町地区が関心を有している住民が多く、茶内地区や霧多布地区が続いている。職業別では教員が比較的関心を有しているという回答が多く、漁業関係、農業関係が少なくなっている。世代別では大きな差異はないが、60代、50代が比較的関心を有する住民が多くなっている。居住期間別では5年以内が最も多く、それに6~20年が続いており、居住期間が短いほど湿原への親近感、関心が高くなる傾向を見せている。

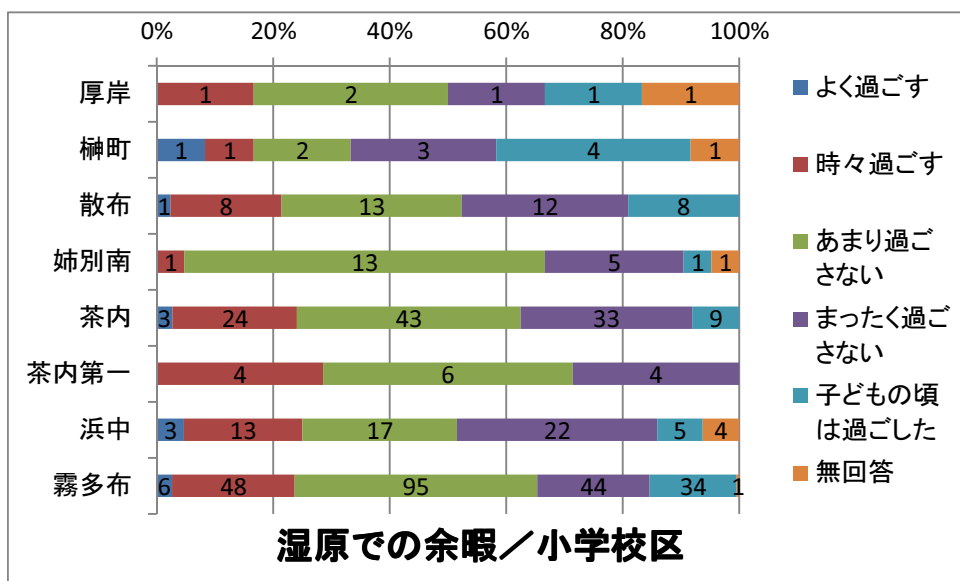
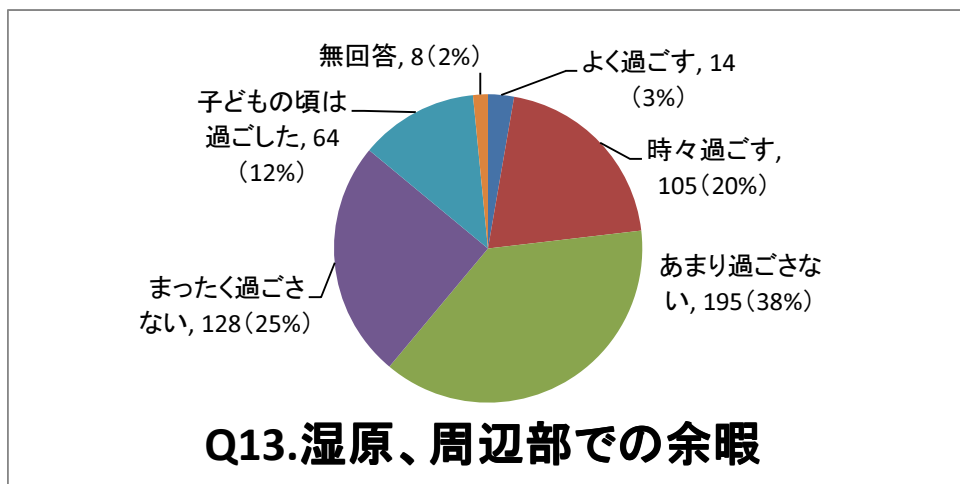




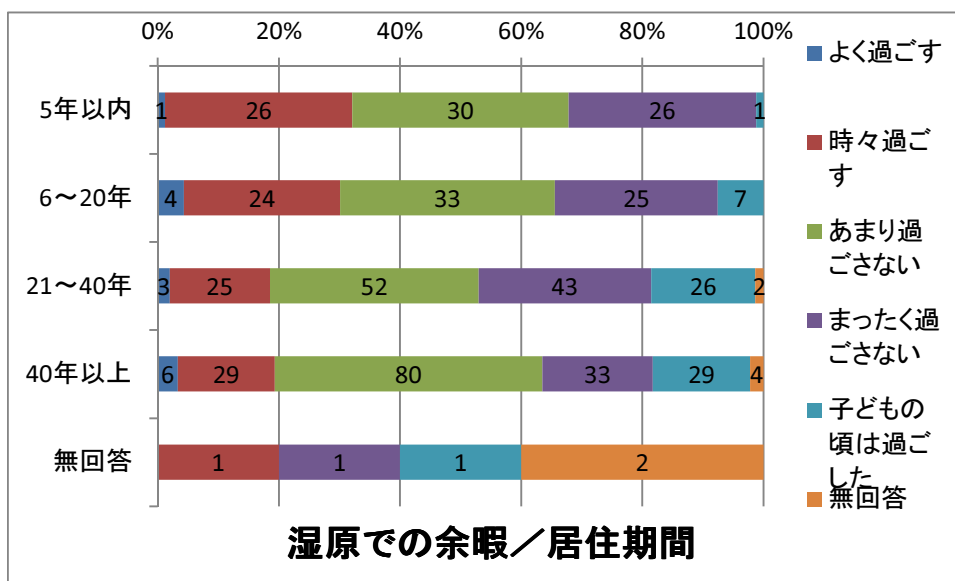
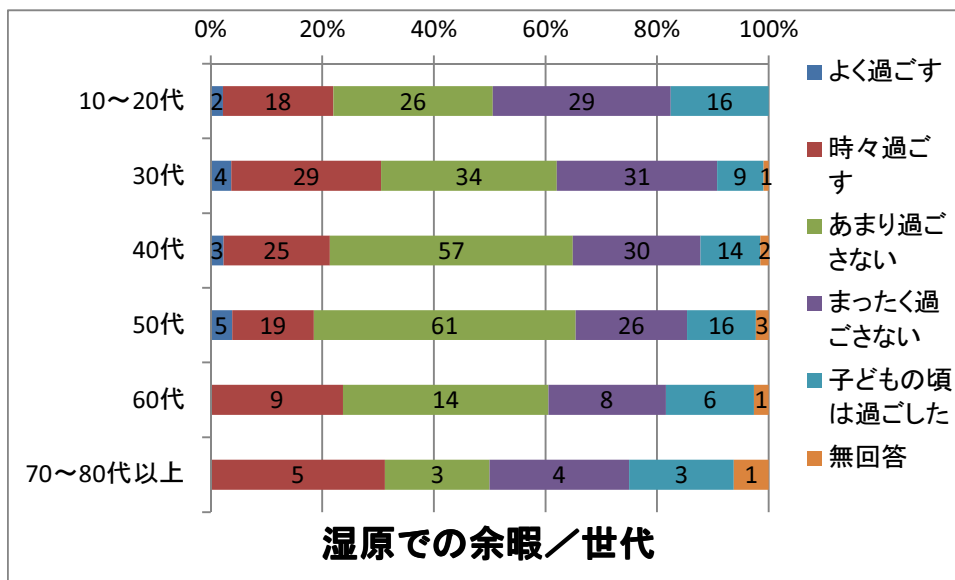
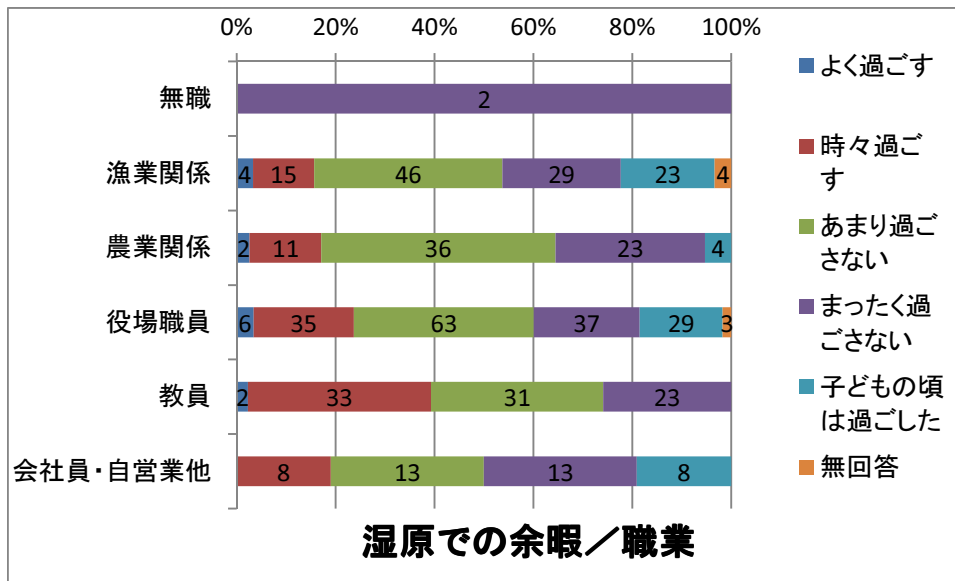
### Q13. 浜中町内の湿原・その周辺での余暇

浜中町内の湿原やその周辺で余暇を過ごす（遊ぶ）ことがあるかどうか聞いた。最も多かったのは「あまり過ぎさない」で38%、次に多かったのが「まったく過ぎさない」で25%だった。湿原・周辺で余暇を過ぎさない・過ぎす機会が少ない住民が6割以上を占めていることが分かった。「よく過ぎす」は3%、「時々過ぎす」は20%にとどまっている。

この結果を属性別に見ると、まず居住地区別では姉別南地区を除くと大きな差異は見られなかった。職業別では、比較的教員に過ぎすという回答が多かった。世代別では70～80代と30代が比較的多くなっている。居住期間別では5年以内と6～20年以内が比較的多くなっており、居住期間が短いほど湿原・周辺部で余暇を過ぎす住民が多くなる傾向を示している。



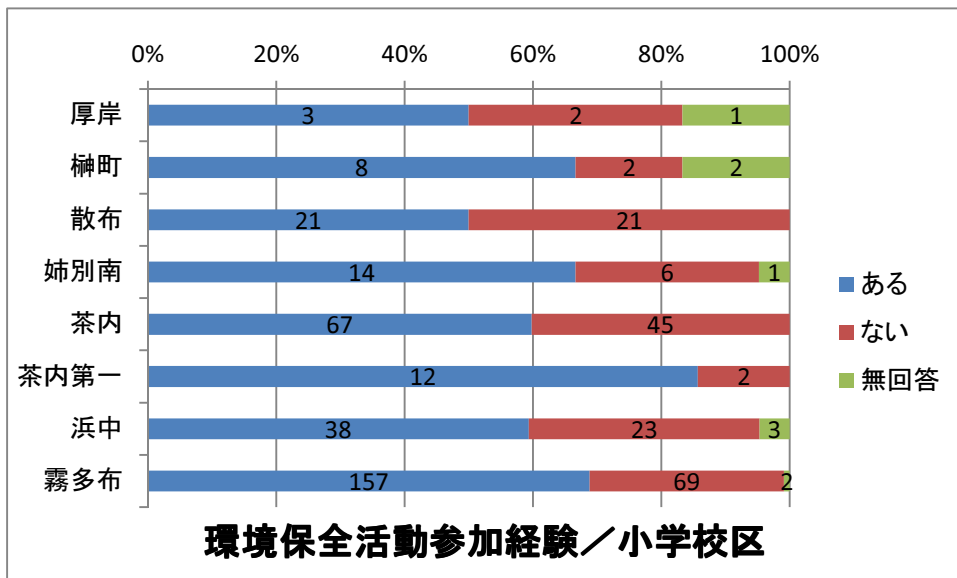
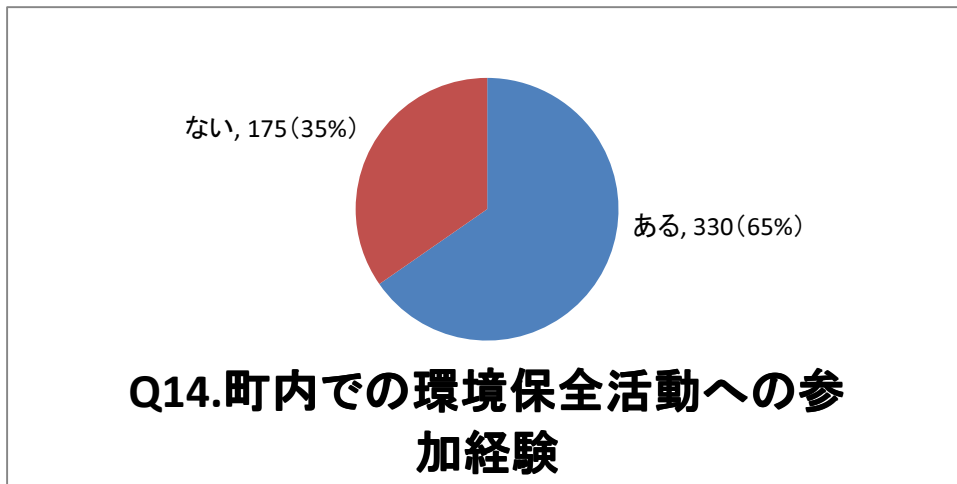


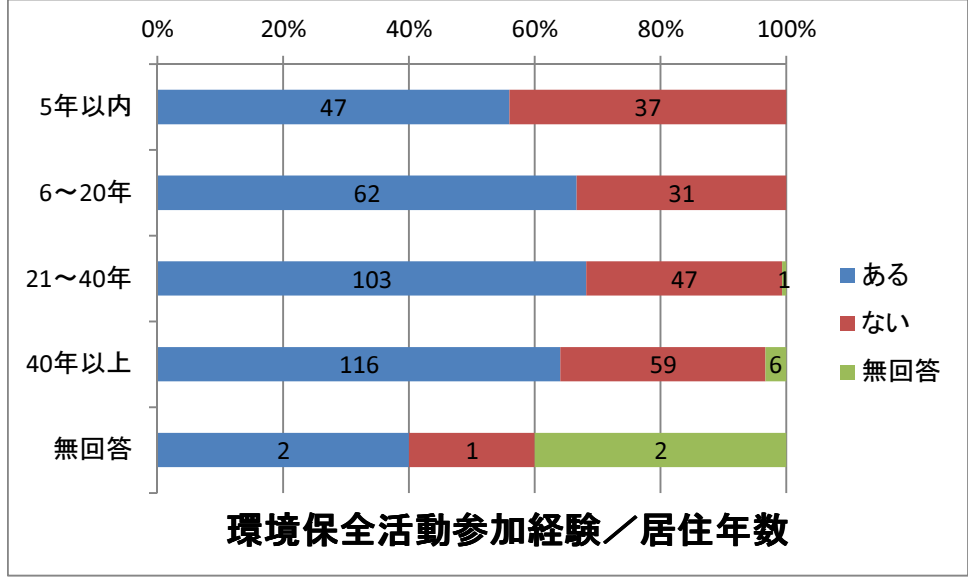
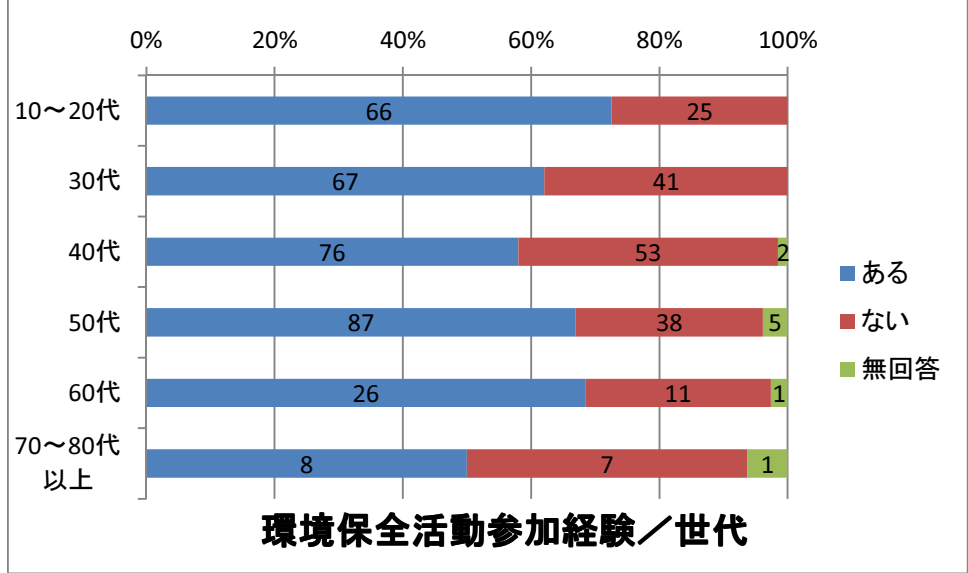
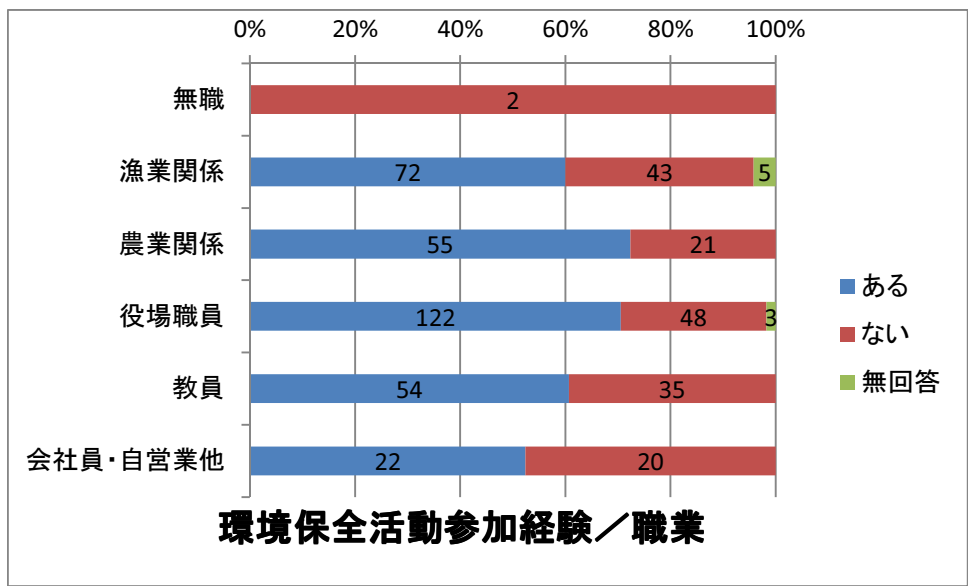


**Q14. 浜中町内での環境保全活動への参加経験**

浜中町内で実施された環境保全活動に参加した経験について聞いた。「ある」という回答が65%を占め、半分以上の住民が環境保全活動に参加した経験があることが分かった。

この結果を属性別に見ると、まず、小学校別では茶内第一地区で参加経験があるという住民が比較的多く、散布地区が少なくなっている。職業別では農業関係、役場職員が比較的多い。世代別では10～20代が比較的多くなっている。居住期間では21～40年、6～20年の層が比較的多くなっている。

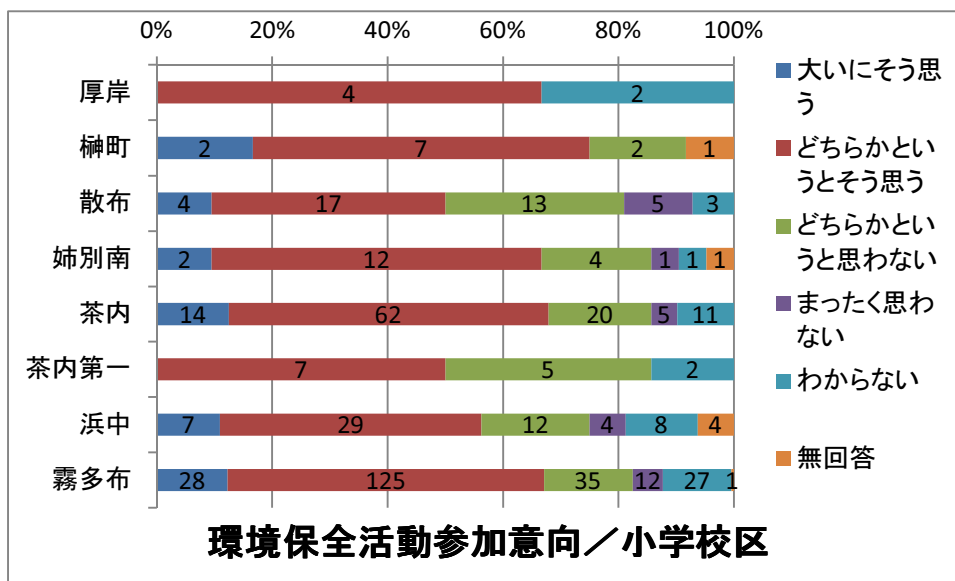
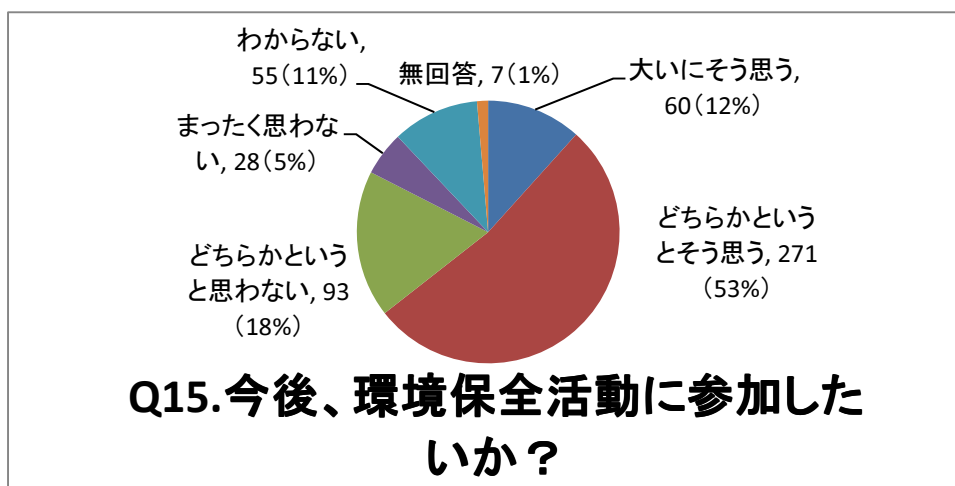


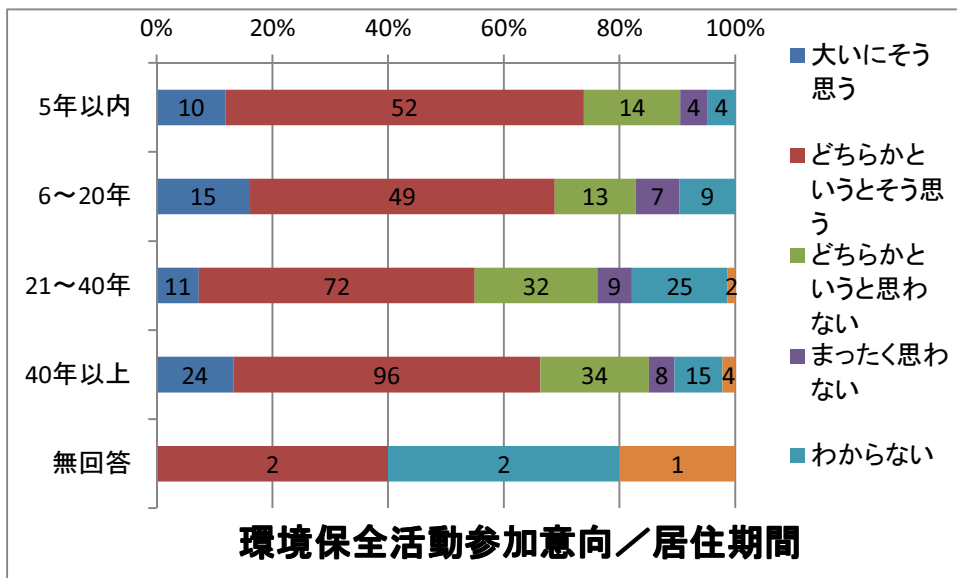
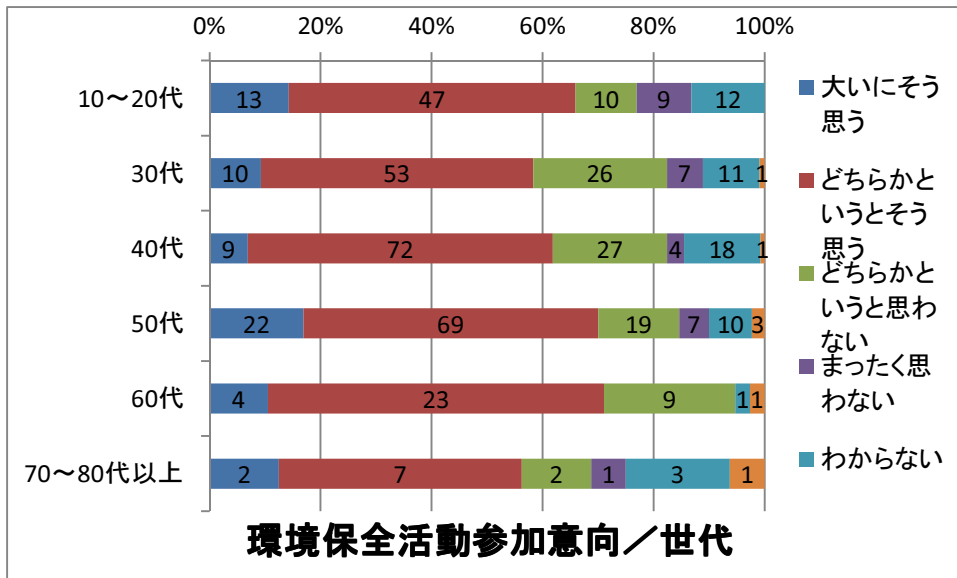
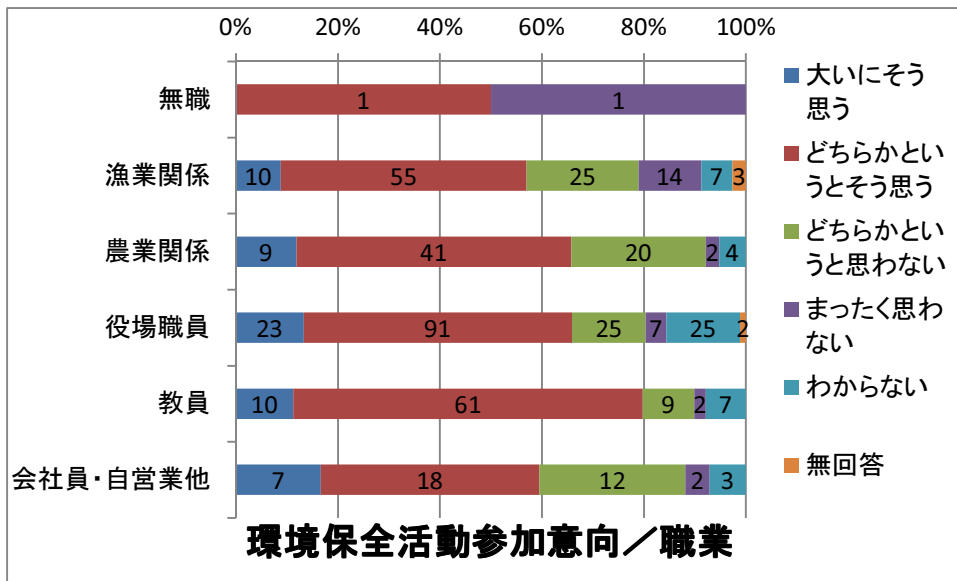


### Q15. 浜中町内で実施される環境保全活動への参加の意向

今後、浜中町内で実施される環境保全活動に参加してみたいと思うかどうか聞いた。「どちらかというと思う」が53%と最も多かった。「大いに思う」(12%)と合わせると、半分以上(65%)の住民が環境保全活動の参加について前向きに考えていることが分かった。

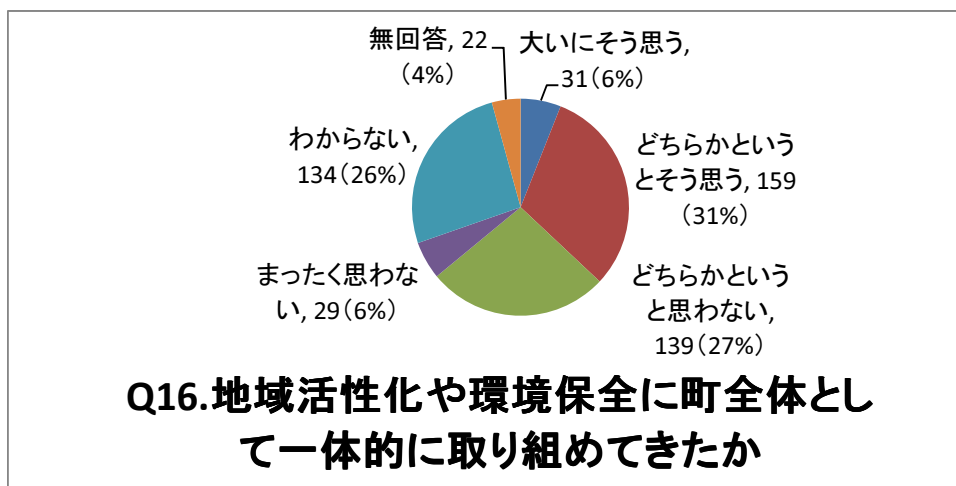
この結果を属性別に見たところ、まず、居住地区別では榊町地区が参加したいと回答した住民が比較的多く、散布地区、茶内第一地区が少なくなっている。職業別では教員で参加したいという回答が比較的多くなっているが、それ以外に大きな差異はない。世代別では全般的に大きな差異は見られないが、60代、50代、10~20代が比較的多くなっている。居住期間別では5年以内と6~20年以内の層が比較的多くなっている。





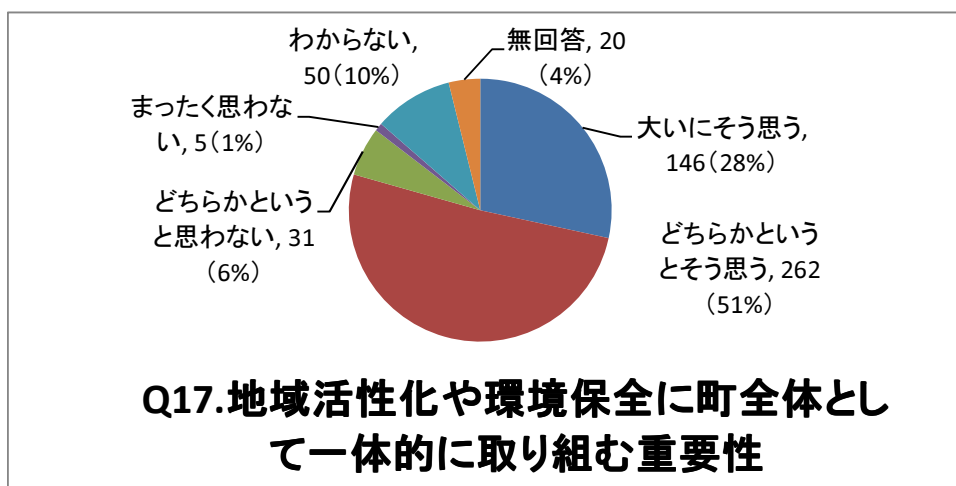
**Q16. 浜中町内での異なる業種・地区を超えた地域活性化、環境保全活動の状況**

これまで浜中町において、地域活性化や環境保全などの活動を、異なる業種や地区を超えて町全体として一体的に進めることは多かったかと思うか聞いた。最も多かったのは「どちらかというと思う」(31%)だった。しかし、「どちらかというと思わない」が27%、「わからない」が26%と、異なる考えの回答も多く、意見が割れていることが分かった。



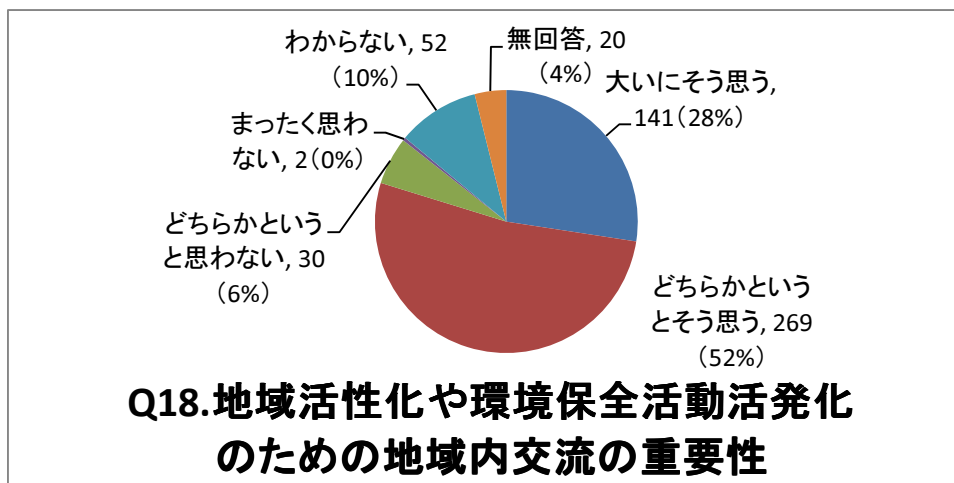
**Q17. 異なる業種・地区を超えた地域活性化、環境保全活動の重要性**

浜中町内において、地域活性化、環境保全活動を、異なる業種や地区を超えて町全体として一体的に取り組むことが重要と思うか聞いた。「どちらかというと思う」(51%)、「大いに思う」(28%)を合計すると、8割近くの住民が、程度に差はあるものの一体的な取り組みが必要であると考えていることが分かった。



#### Q18. 異なる業種や地区の組織・人材が交流する機会の重要性

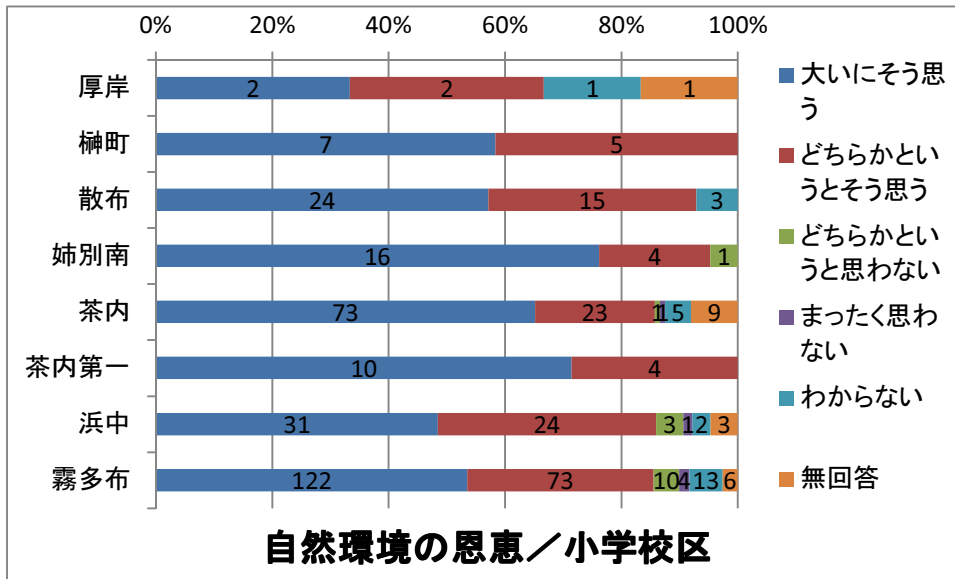
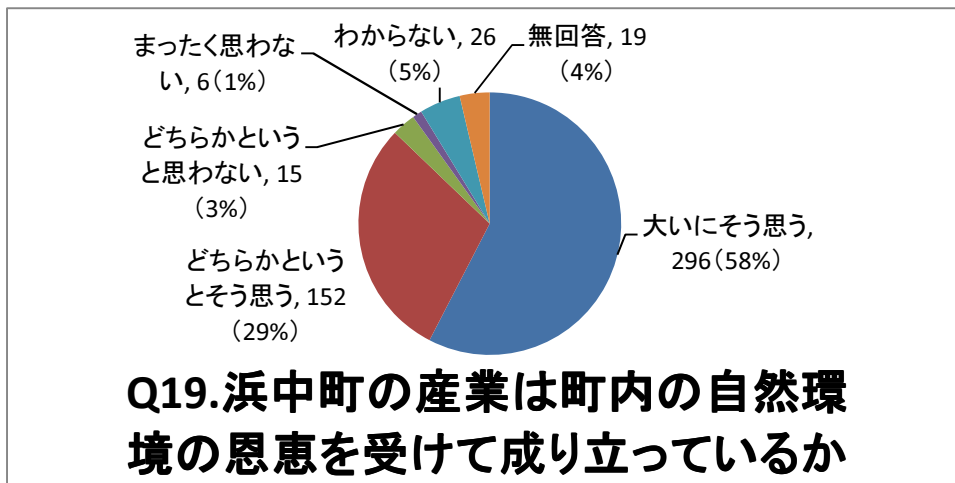
浜中町内において、地域活性化や環境保全活動を活発化させることを目的に、町内の異なる業種や地区の組織・人材が交流する機会をもつことは重要かどうか聞いた。「どちらかというと思う」(52%)、「大いにそう思う」(28%)を合計すると、8割の住民が重要と考える傾向にあることが分かった。



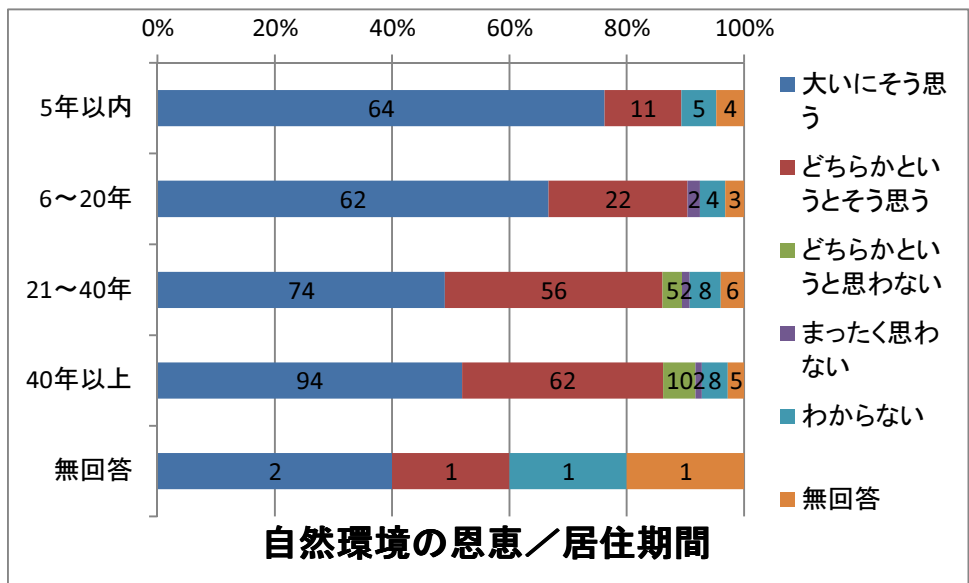
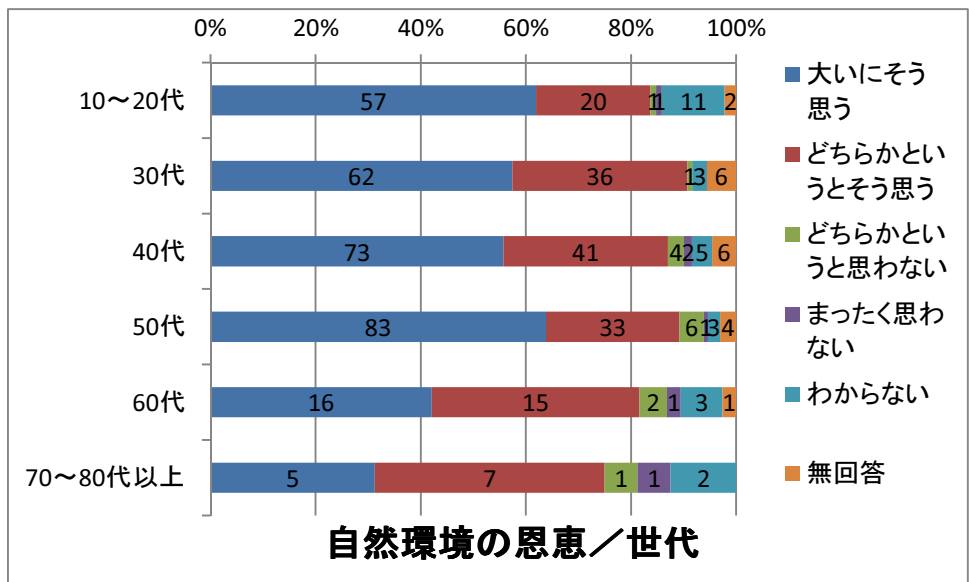
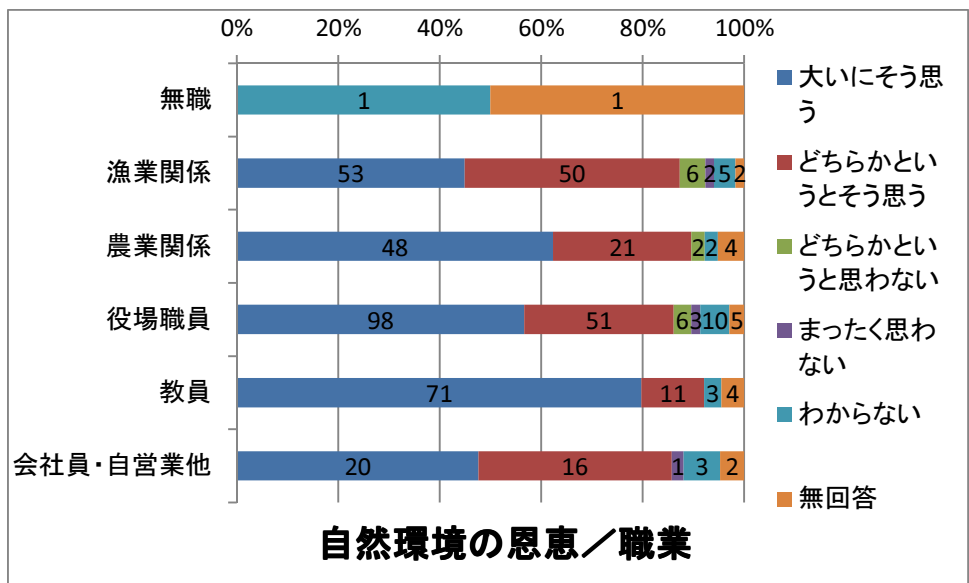
**Q19. 浜中町の産業に対する自然環境の恩恵**

浜中町の産業は町内の自然環境の恩恵を受けて成り立っていると思うかどうか聞いた。その結果、最も多かったのは「大いにそう思う」(58%)だった。「どちらかというと思う」が29%で、9割近くの大半の住民が何らかの恩恵を受けていると考える傾向にあることが分かった。

この結果を属性別に見てみると、まず居住地区別では、いずれの地区も何らかの恩恵を受けて成り立っていると回答する住民が多数を占める傾向にあるが、特に姉別南地区、茶内第一地区、茶内地区では「大いにそう思う」と回答した住民が多くなっている。職業別では、これも同様に恩恵を受けて成り立っているという回答が多数を占めているが、比較的教員に大いにそう思うという回答が多くなっている。世代別では、60代以上で大いに思うという回答が少ない。居住期間別では、大いにそう思うと回答した住民は、5年以内、6~20年以内の層に比較的多く、居住期間が短いほど、自然環境の恩恵を受けていると強く思う傾向にあることがうかがえる。

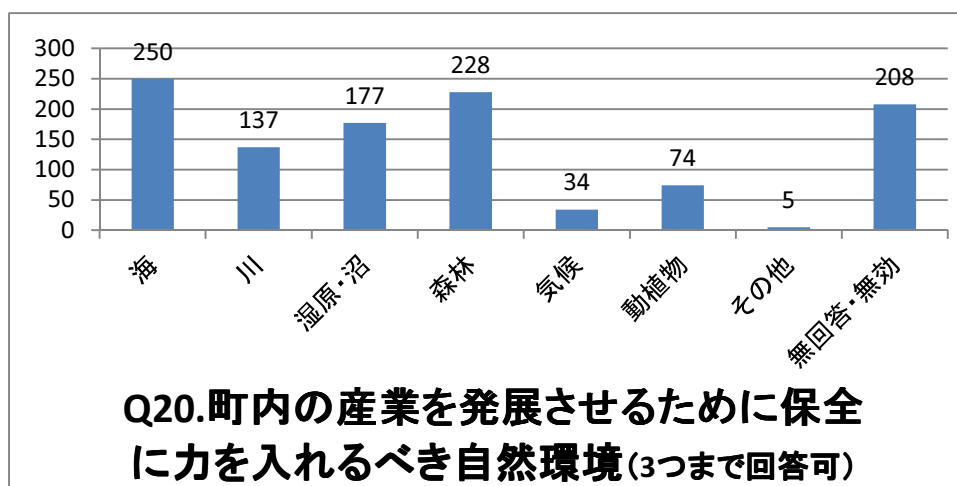






Q20. 浜中町内の産業を発展させるために保全に力を入れるべき自然環境

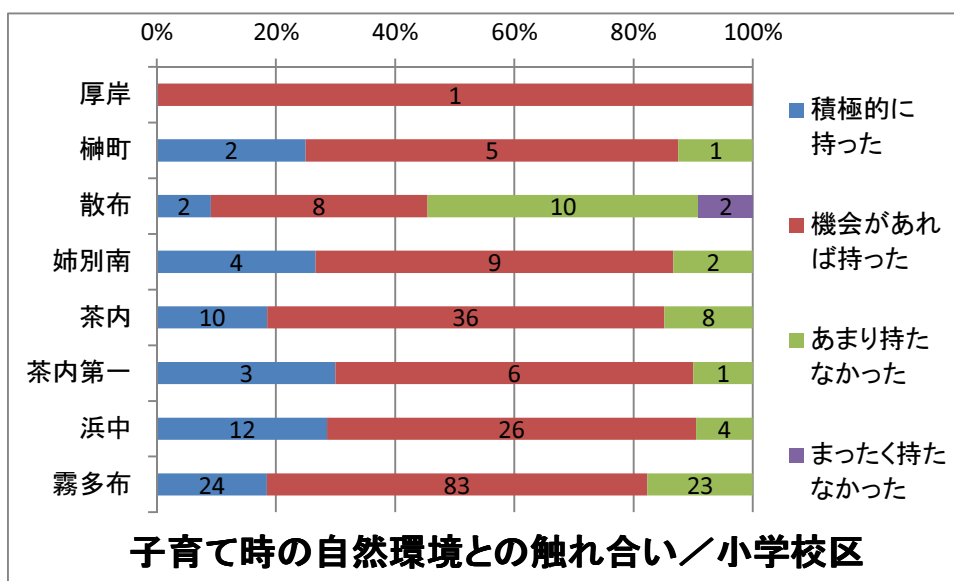
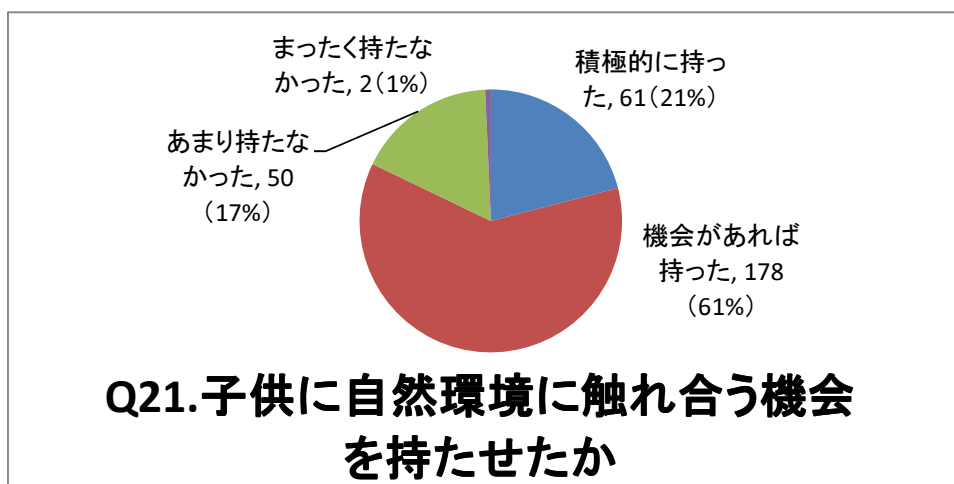
Q19で「大いに思う」「どちらかというと思う」と回答した住民に、浜中町内の産業を発展させるために保全に力を入れるべき自然環境は何か聞いた（3項目選択制）。その結果、最も多かったのは「海」で250人だった。以降、「森林」（228人）、「湿原・沼」（177人）が続いている。

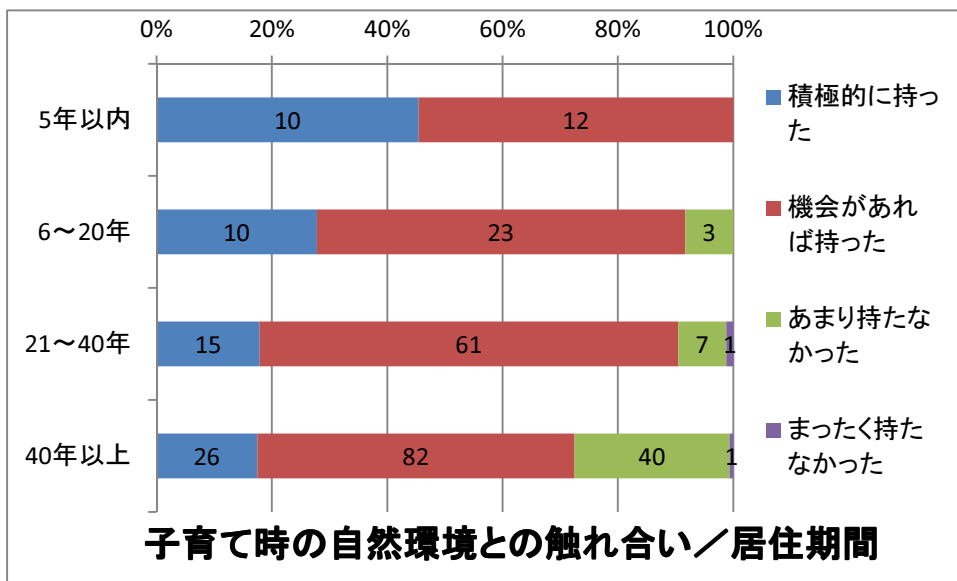
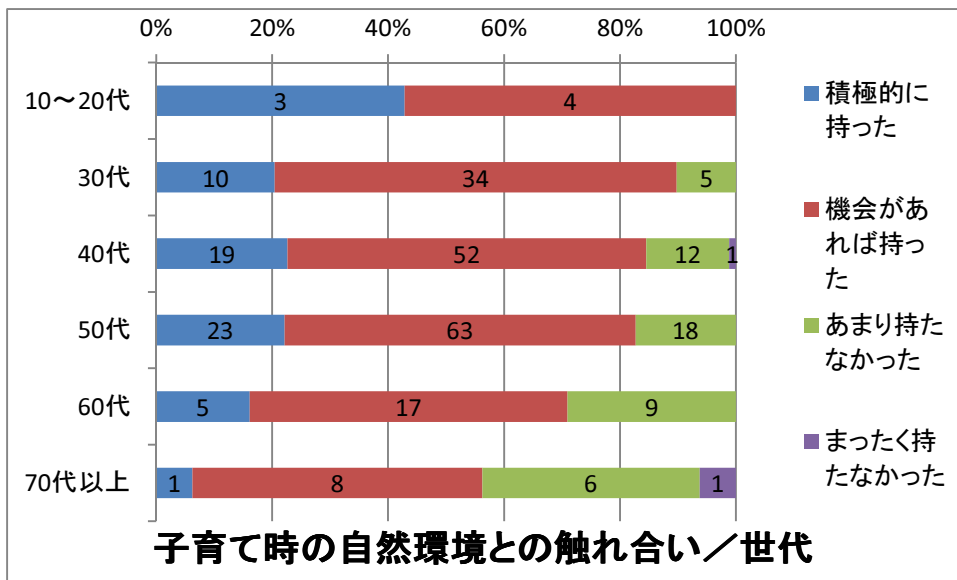
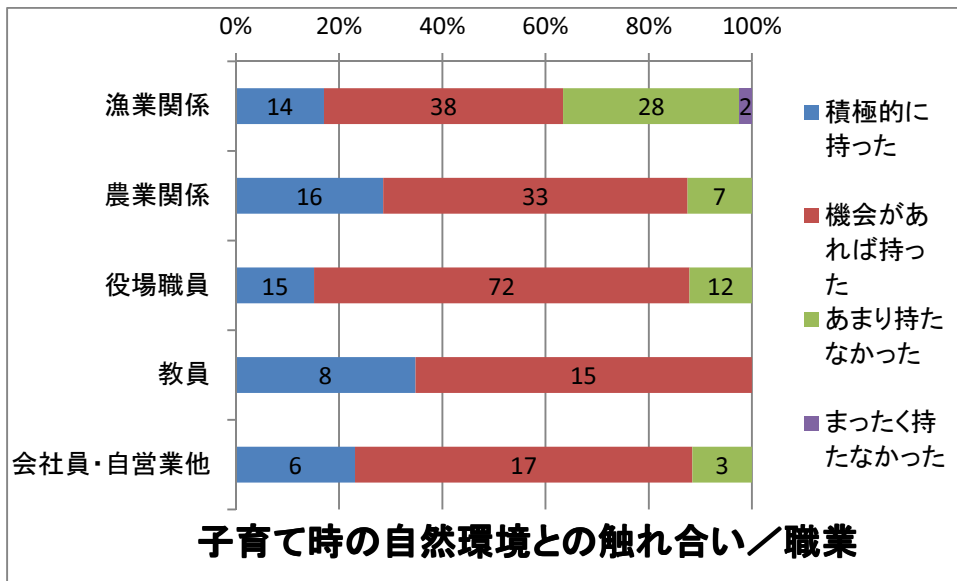


### Q21. 子育てをする際の自然環境との触れ合い

子育ての経験がある住民に対して、子育てをした際に、子どもが自然環境に触れ合う機会をどの程度持ったか聞いた。その結果、最も多かったのは「機会があれば持った」(61%)だった。次に多かったのは「積極的に持った」(21%)だった。8割以上の住民が、程度の差はあるものの、何らかの形で子どもを自然環境に触れ合わせる機会を持たせていたことが分かった。

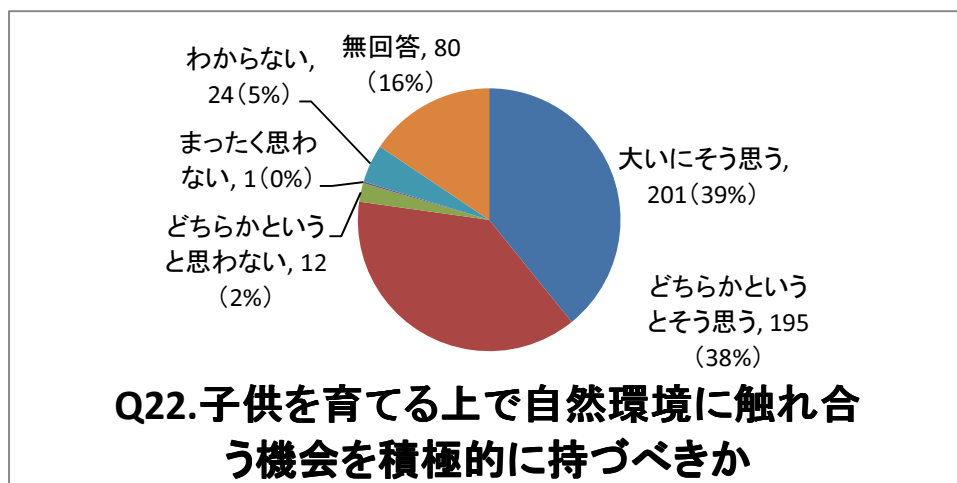
この結果を属性別に見ると、まず、居住地区別では、散布地区が比較的低い以外は大きな差異はなかった。職業別では、教員が比較的高く、漁業関係が低くなっている。世代別では若い年齢層になるほど触れ合う機会をより多くもつ傾向を示している。居住期間別でも居住期間が短い層ほど多くなる傾向を見せている。





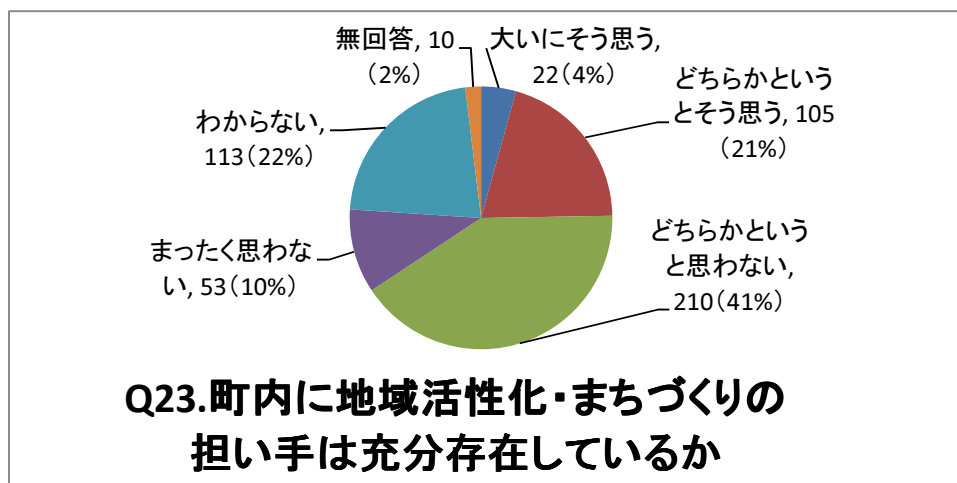
## Q22. 子育てをする際の自然環境と触れ合う機会の重要性

今後、浜中町内で子育てをする際に、自然環境と触れ合う機会を積極的に持つべきと思うかどうか聞いた。その結果、「大いにそう思う」が39%と最も多く、次に「どちらかというと思う」(38%)が続いている。多くの住民が、自然環境と触れ合う機会を積極的に持たせるべきと考えていることが分かった。



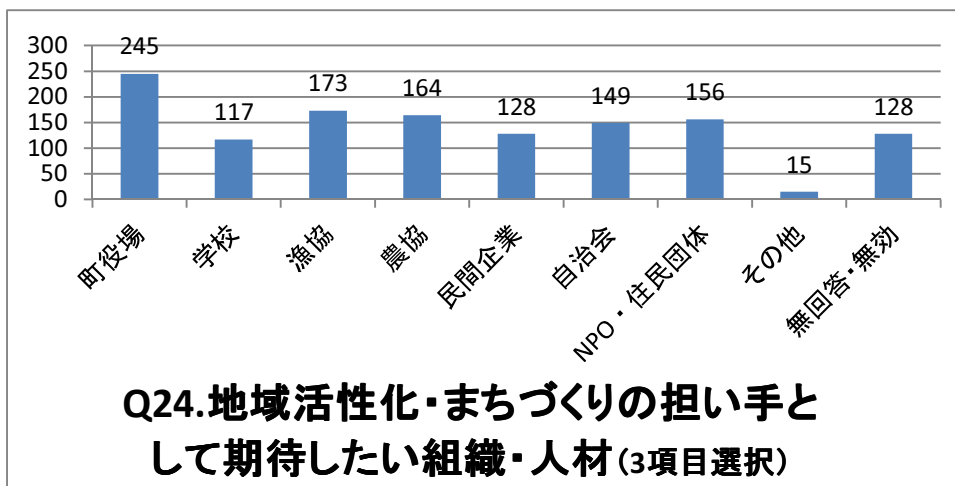
## Q23. 浜中町の地域活性化・まちづくりの担い手の存在

現在、浜中町の地域活性化やまちづくりの担い手となる組織・人材は充分存在していると思うかどうか質問した。その結果、「どちらかというと思わない」が41%と最も多かった。「まったく思わない」(10%)と合わせると、5割の住民が担い手は充分存在していないと考える傾向にあることが分かった。また、「わからない」と回答した住民も22%と少ない。



#### Q24. 浜中町の地域活性化・まちづくりの担い手として期待したい組織・人材

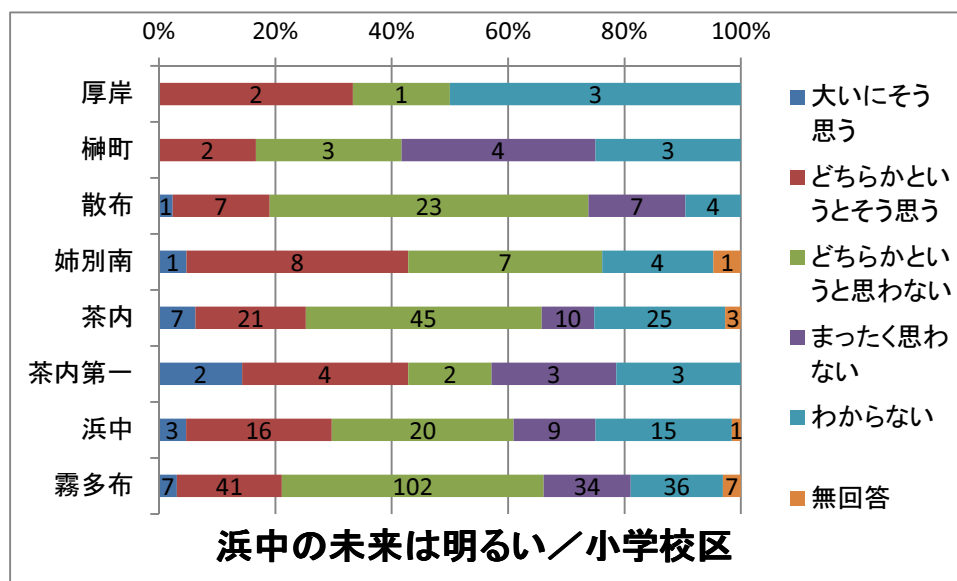
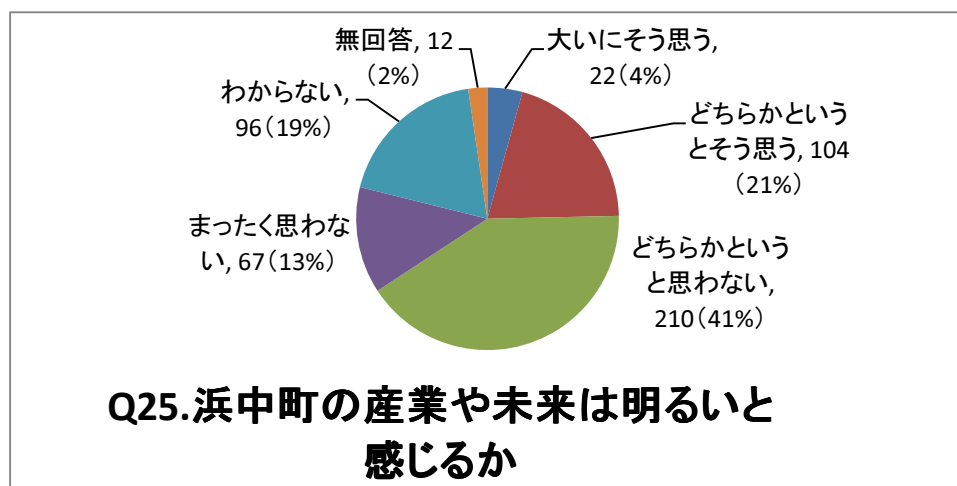
浜中町の地域活性化・まちづくりの担い手として期待したい組織・人材を質問した（3項目選択制）。その結果、「町役場」と答えた住民が245人と最も多かった。以降、「漁協」（173人）、「農協」（164人）、「NPO・住民団体」（156人）、「自治会」（149人）と続いている。浜中町では、町役場以外にも比較的多様な組織が地域活性化・まちづくりの担い手として住民から期待されていることがうかがえる。

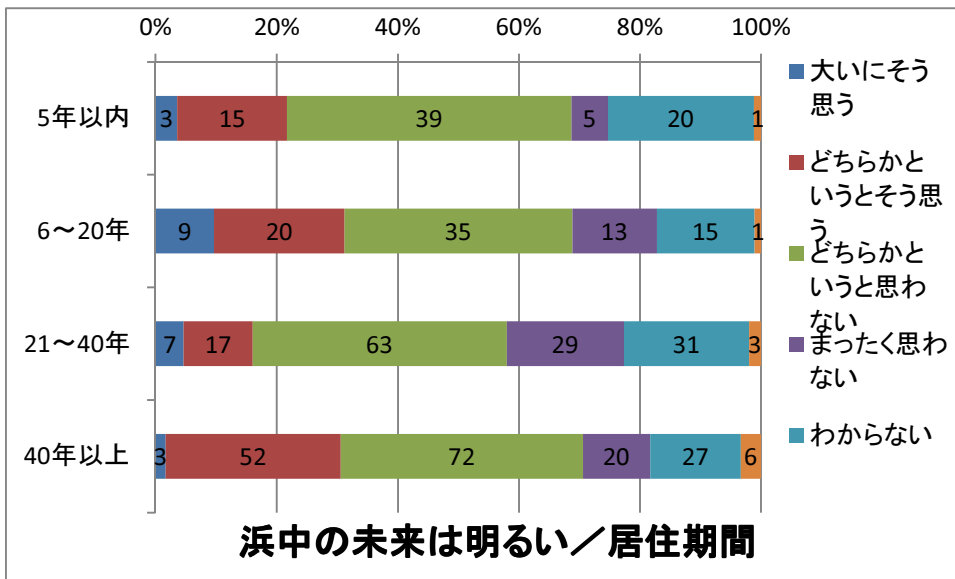
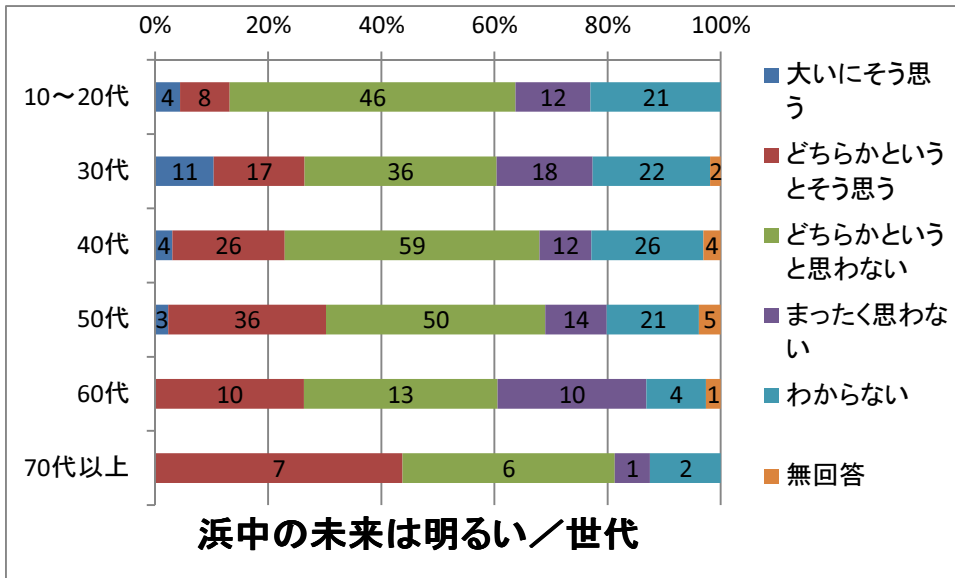
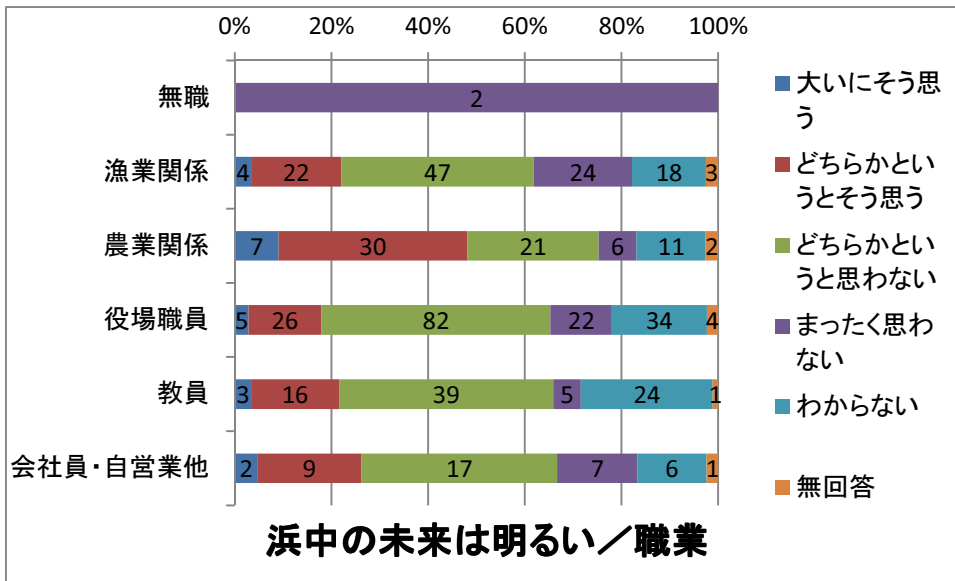


## Q25. 浜中町の産業や社会の未来

浜中町の産業や社会の未来は明るいと思うかどうか質問した。その結果、「どちらかというと思わない」が41%と最も多かった。「まったく思わない」(13%)と合わせると、5割以上の住民が程度に差はあるものの浜中町の未来は明るくないと考えていることが分かった。また、「わからない」という回答も19%と少なくない。

この結果を属性別に見ると、まず、居住地区別では姉別南地区、茶内第一地区がどちらかというと思える住民が比較的多くなっている。一方で、榑町地区、散布地区、霧多布地区などでは同様に捉えている住民が少ない。職業別では、農業関係が他の業種と比較して明るいという回答が多くなっている。世代別では若い層のほうがそう思わないという回答が多くなる傾向を示している。居住期間別では21~40年と5年以内の層がそう思わないという回答が比較的多くなっている。

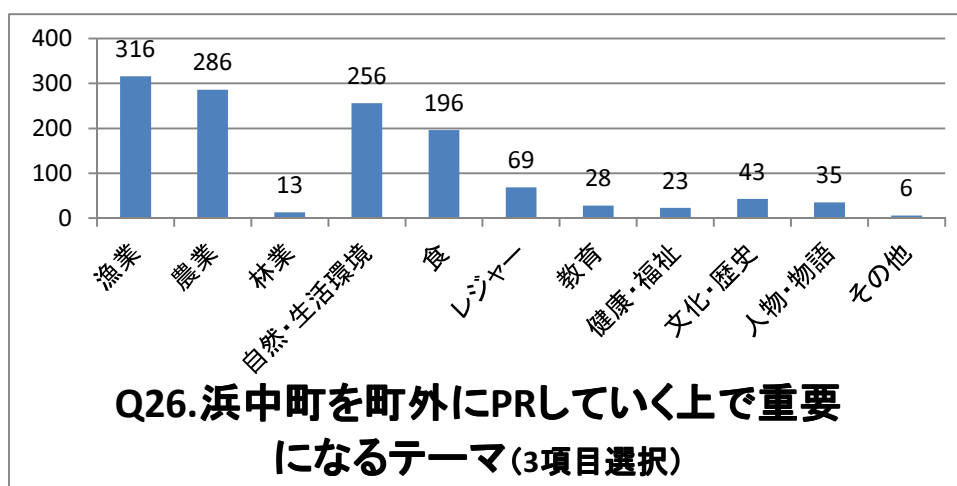






## Q26. 浜中町を町外にPRする際に重要になるテーマ

浜中町を町外にPRする上では、どのようなテーマが重要になると思うか質問した（3項目選択制）。その結果、「漁業」が316人と最も多かった。それ以外は、「漁業」（286人）、「自然・生活環境」（256人）、「食」（196人）と続いている。浜中町をPRする上では、一次産業と自然・生活環境が重要と考えている住民が多いことがうかがえる。



### ■ まとめ 一本調査で明らかになったこと一

- ・ 浜中町に愛着を有する住民は多い。しかし、地域の将来は明るいとする住民は多くなかった
- ・ 環境保全、地域活性化等に対する意識、活動参加経験は高いと捉えられる
- ・ 町内の地域活性化・まちづくりにおいて、一次産業、環境保全が重要なテーマになっているという認識がある程度共有されている
- ・ 地域活性化や環境保全活動において、町内の地区や産業等を横断した一体的取り組みが十分なされていない、しかしその重要性は高い、と認識されている
- ・ 地域活性化・まちづくりへの関心、自然環境と産業との結びつき、地域の将来性、などに関して、山側と海側の集落で考え・捉え方に違いが見られる。職業別でも同様の傾向が見られる
- ・ 教員や居住期間が短い住民などは、浜中の自然環境や環境保全活動等への関心は高いが、活動参加経験は高くないことが分かった
- ・ 若い世代において、地域の未来は明るくない、という回答が多いのが気になる
- ・ 今後、地域活性化や環境保全に関連する活動について、各種の枠を超えて地域で一体的に取り組むを進めていける方策を検討することが重要になると考えられる
- ・ 地域活性化や環境保全活動等に、居住期間が短い住民や若い世代など、地域に十分根を下ろせていない層が気軽に参加できる仕組みづくりが重要になると考えられる